

# 令和8年度全国学力・学習状況調査に係る
# 厚木市立小・中学校の調査結果について

厚木市教育委員会

# 目 次　　ページ


１　調査の概要　１

２　調査結果の解釈等に関する留意事項　２

３　教科（国語、算数・数学、英語）に関する調査結果　３

（１）小学校　国語の主な結果（平均正答率）について　５

（２）小学校　算数の主な結果（平均正答率）について　１１

（３）中学校　国語の主な結果（平均正答率）について　１６

（４）中学校　数学の主な結果（平均正答率）について　２１

（５）中学校　英語の主な結果
（平均正答率及び IRT スコア）について　２７

４　児童・生徒質問調査の主な結果　３１

５　あつぎの学びの充実に向けて　３８

# 令和８年度全国学力・学習状況調査に係る
# 厚木市立小・中学校の調査結果について

小学校第６学年及び中学校第３学年を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。教育委員会では、今回の分析結果を踏まえ、教育施策の成果や課題等を把握・検証し、今後の教育施策に反映するとともに、各小・中学校において、校長のリーダーシップの下、各教員が指導内容・方法の改善を進める支援をしてまいります。

## Ⅰ　調査の概要

（１）調査の目的

ア　全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ　学校における児童・生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

ウ　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査の対象学年

小学校第６学年及び中学校第３学年

（３）調査の内容

ア　教科に関する調査　小学校：国語、算数　　中学校：国語、数学、英語

※　国語、算数・数学は、冊子を用いた筆記方式で実施しました。
中学校英語は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システムによるオンライン方式（以下「CBT」という。）で実施しました。

イ　生活習慣や学習環境等に関する質問調査

・児童・生徒に対する調査
（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
※　児童・生徒が活用する ICT 端末等を用いた CBT で実施しました。

・学校に対する質問調査
（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）
※　オンラインによる回答方式で実施しました。

（４）調査の方式

悉皆調査
※全国の国・公・私立学校の小学校第６学年及び中学校第３学年の原則、全児童・生徒を対象とした調査です。

（５）調査日

教科に関する調査（中学校英語以外）：令和８年４月 23 日（木）
生徒質問調査、中学校英語（「読むこと」「書くこと」「聞くこと」）
：令和８年４月 20 日（月）～23 日（木）のうち、あらかじめ指定された１日
中学校英語（「話すこと」）
：令和８年４月 24 日（金）～５月 29 日（金）のうち、あらかじめ指定された１日
児童質問調査
：令和８年４月 24 日（金）～５月８日（金）のうち、あらかじめ指定された実施日

（６）調査に参加した児童・生徒数

| | 国語 | 算数・数学 | 英語 | 児童・生徒質問 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 1,629 人 | 1,630 人 | － | 1,630 人 |
| 中学校 | 1,546 人 | 1,544 人 | 1,474 人 | 1,502 人 |

（参考）全国・県・市の公立学校の参加校数

| | 小学校 | 中学校 |
|---|---|---|
| 全国（公立） | 18,126 校 | 9,249 校 |
| 神奈川県（公立） | 846 校 | 418 校 |
| 厚 木 市 | 23 校 | 13 校 |

## ２　調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童・生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施していますが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要です。

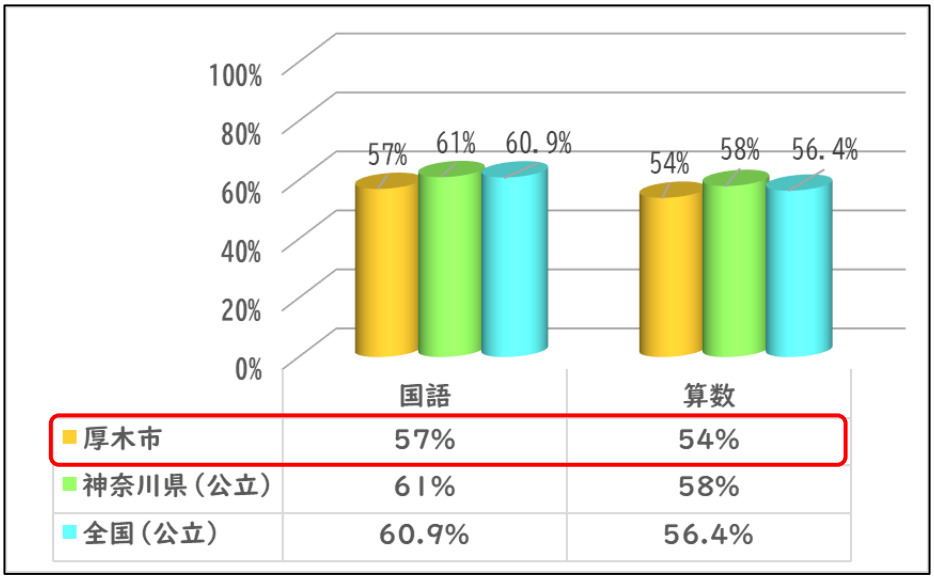
また、平均正答数（※１）及び平均正答率（※２）については、各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要です。

※１　平均正答数は、児童・生徒の正答数の平均の値です。

※２　平均正答率は、平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）です。
　　県及び市の値は、小数第１位を四捨五入した整数値で国から提供されています。

## 3　教科（国語、算数・数学、英語）に関する調査結果

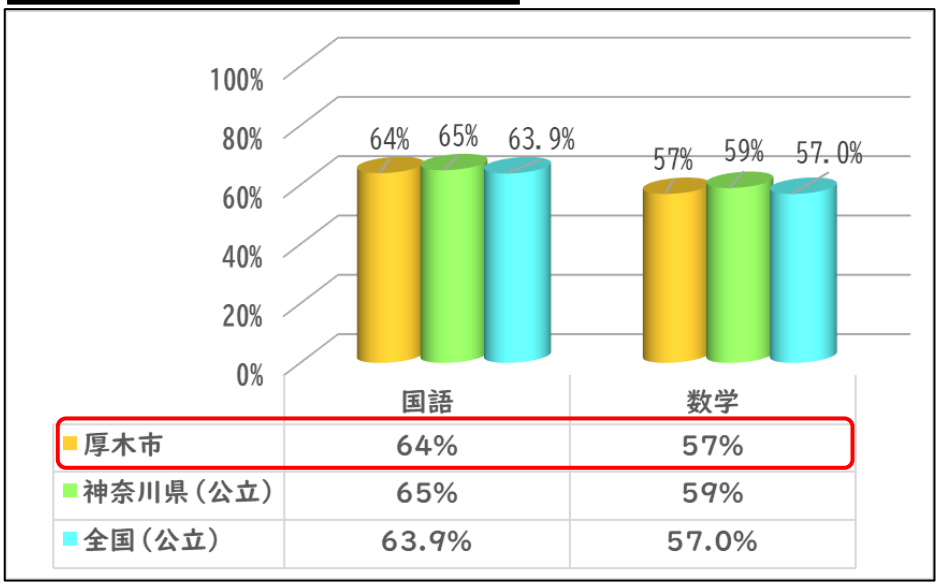
### 小学校 国語・算数【平均正答率】




| | 国語 | 算数 |
|---|---|---|
| 厚木市 | 57% | 54% |
| 神奈川県（公立） | 61% | 58% |
| 全国（公立） | 60.9% | 56.4% |

全国（公立）と同等の結果となりました。

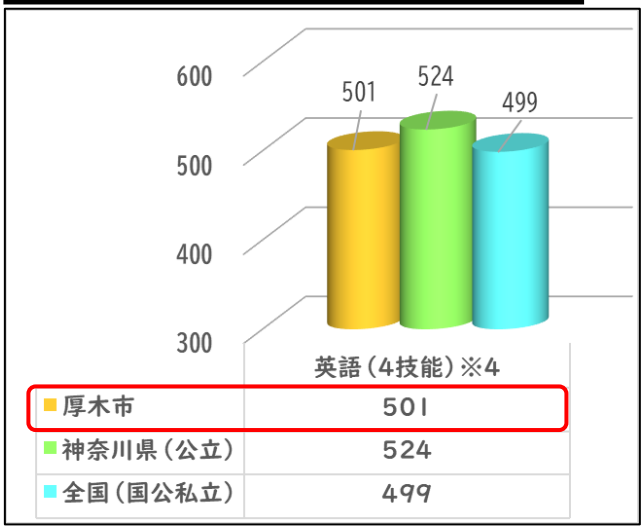
### 中学校 国語・数学【平均正答率】




| | 国語 | 数学 |
|---|---|---|
| 厚木市 | 64% | 57% |
| 神奈川県（公立） | 65% | 59% |
| 全国（公立） | 63.9% | 57.0% |

国語は全国（公立）を上回り、数学は同率となりました。

### 中学校 英語【平均 IRT スコア（※3）】




| | 英語（4技能）※4 |
|---|---|
| 厚木市 | 501 |
| 神奈川県（公立） | 524 |
| 全国（国公私立） | 499 |

※３　「IRT（項目反応理論）」とは、正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。また、「IRT スコア」とは、IRT に基づいて 500 を基準にした得点で表すものです。「平均 IRT スコア」は、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとったものです。

※４　英語（４技能）とは、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」です。

全国（公立）を２ポイント上回りました。

# 学校段階・教科別の結果について

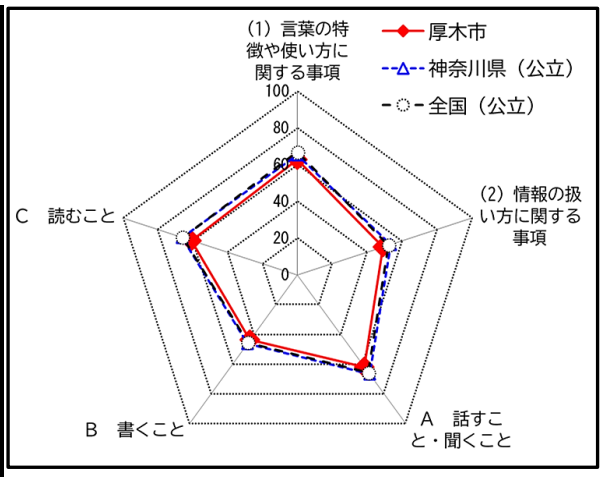
## （１）小学校　国語の結果（平均正答率）

【学習指導要領の内容】

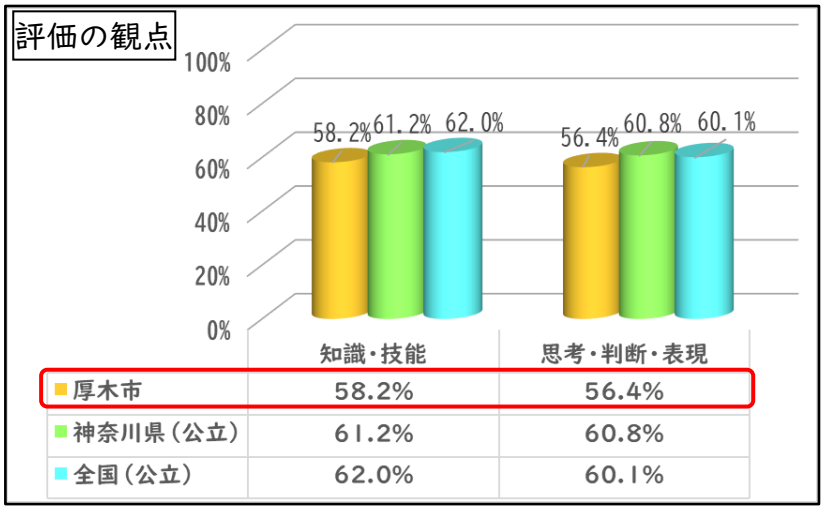
（単位：%）

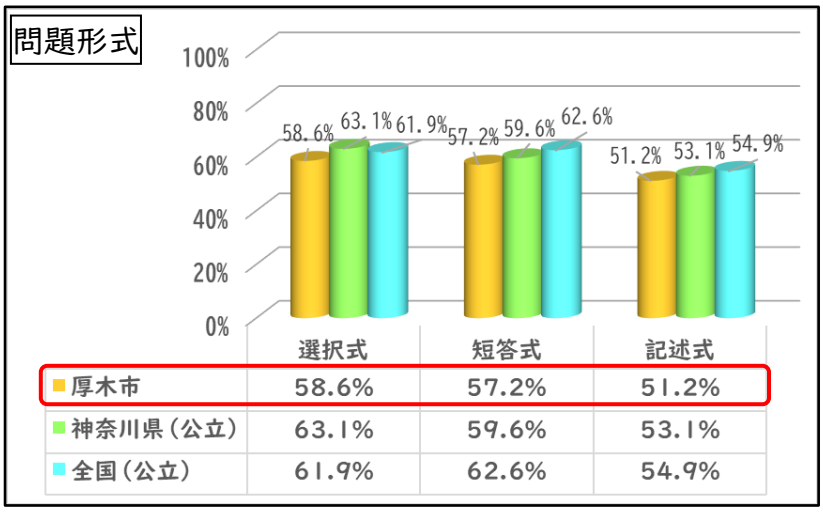
| 分　類 | 学習指導要領の内容 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 知識及び技能 | | | 思考力，判断力，表現力等 | | |
| 区　分 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | (2)情報の扱い方に関する事項 | (3)我が国の言語文化に関する事項 | A 話すこと・聞くこと | B 書くこと | C 読むこと |
| 厚木市 | 62.8 | 49.0 | — | 61.9 | 43.9 | 60.7 |
| 神奈川県(公立) | 65.2 | 53.3 | — | 66.9 | 46.3 | 66.2 |
| 全国(公立) | 66.8 | 52.3 | — | 65.8 | 45.7 | 65.9 |

（単位：%）




全国及び神奈川県と同様に、「B 書くこと」に課題があると考えられます。



【問題例】

【小学校 国語】 本市及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

3 文章を読み、考えたことをまとめる 設問一

〔出題の趣旨〕

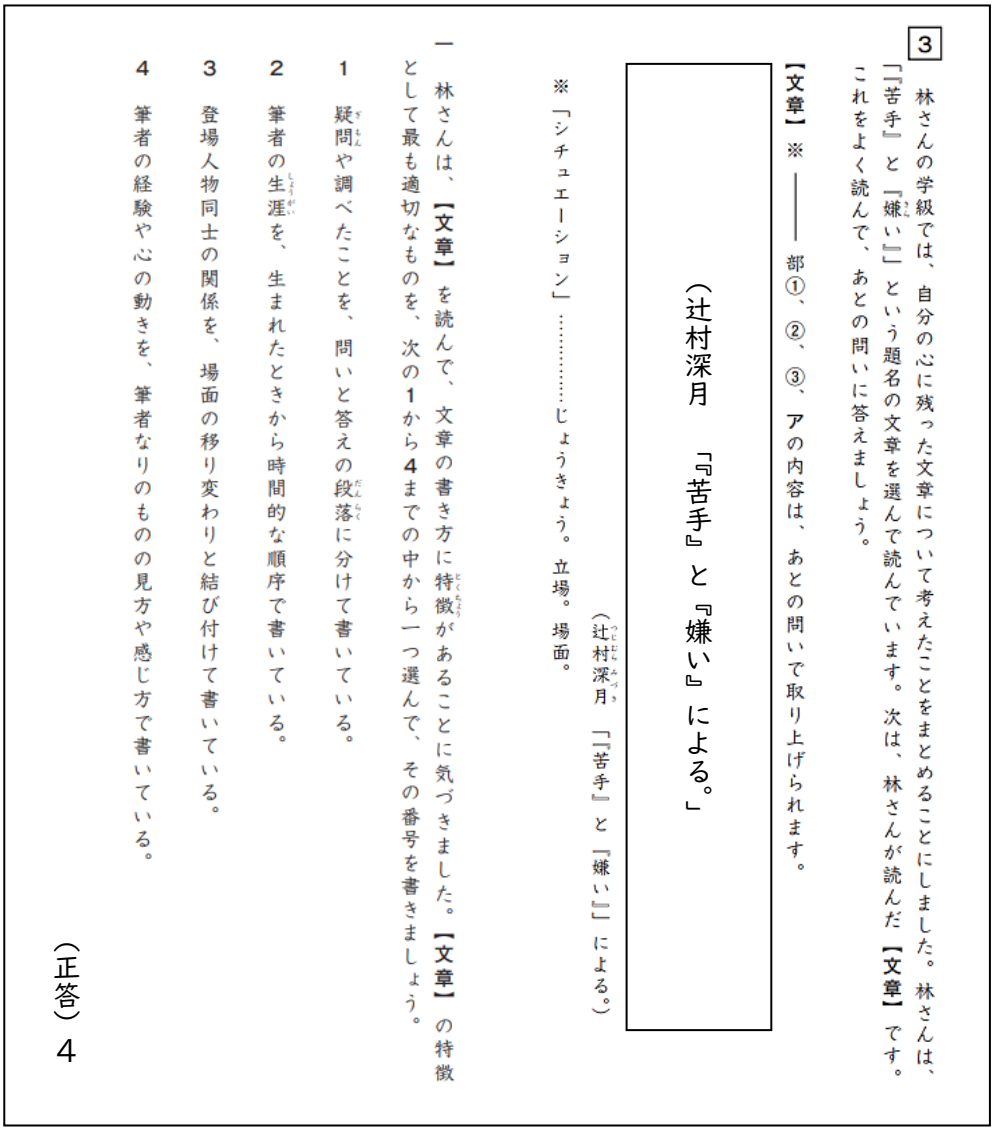
話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領における内容〕

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県(公立) | 全国(公立) | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 75.9% | 77.9% | 76.7% | -0.8 |



3 林さんの学級では、自分の心に残った文章について考えたことをまとめることにしました。林さんは、「『苦手』と『嫌い』」という題名の文章を選んで読んでいます。次は、林さんが読んだ【文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章】※――部①、②、③、アの内容は、あとの問いで取り上げられます。

（辻村深月 「『苦手』と『嫌い』による。」

（辻村深月（つじむらみづき）「『苦手』と『嫌い』」による。）

※「シチュエーション」……じょうきょう。立場。場面。

一 林さんは、【文章】を読んで、文章の書き方に特徴（とくちょう）があることに気づきました。【文章】の特徴として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 疑問（ぎもん）や調べたことを、問いと答えの段落（だんらく）に分けて書いている。

2 筆者の生涯（しょうがい）を、生まれたときから時間的な順序で書いている。

3 登場人物同士の関係を、場面の移り変わりと結び付けて書いている。

4 筆者の経験や心の動きを、筆者なりのものの見方や感じ方で書いている。

（正答）4

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

話や文章の種類とその特徴について概ね理解できていると考えられます。

【小学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

2 夏を快適に過ごすための工夫について報告する文章を書く 設問四

〔出題の趣旨〕

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領における内容〕

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 31.7% | 32.4% | 33.5% | -1.8 |

四 花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、［　　］に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

5 終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

| 本の題名 | 本文の一部 |
|---|---|
| 色の効果 | 青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。 |
| 生活と太陽 | 白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。 |
| 夏のくらし方 | 白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。 |

〈条件〉

○ 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。

○ ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。

○ ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。

○ 百四十字以内にまとめて書くこと。

◆

※上の原稿（げんこう）用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

（正答例）

「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。（123 字）

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

引用して、自分の考えが伝わるように書いて表現することに課題があると考えられます。

【小学校 国語】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題

2 夏を快適に過ごすための工夫について報告する文章を書く 設問三のア

〔出題の趣旨〕

学年別漢字配当表※に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

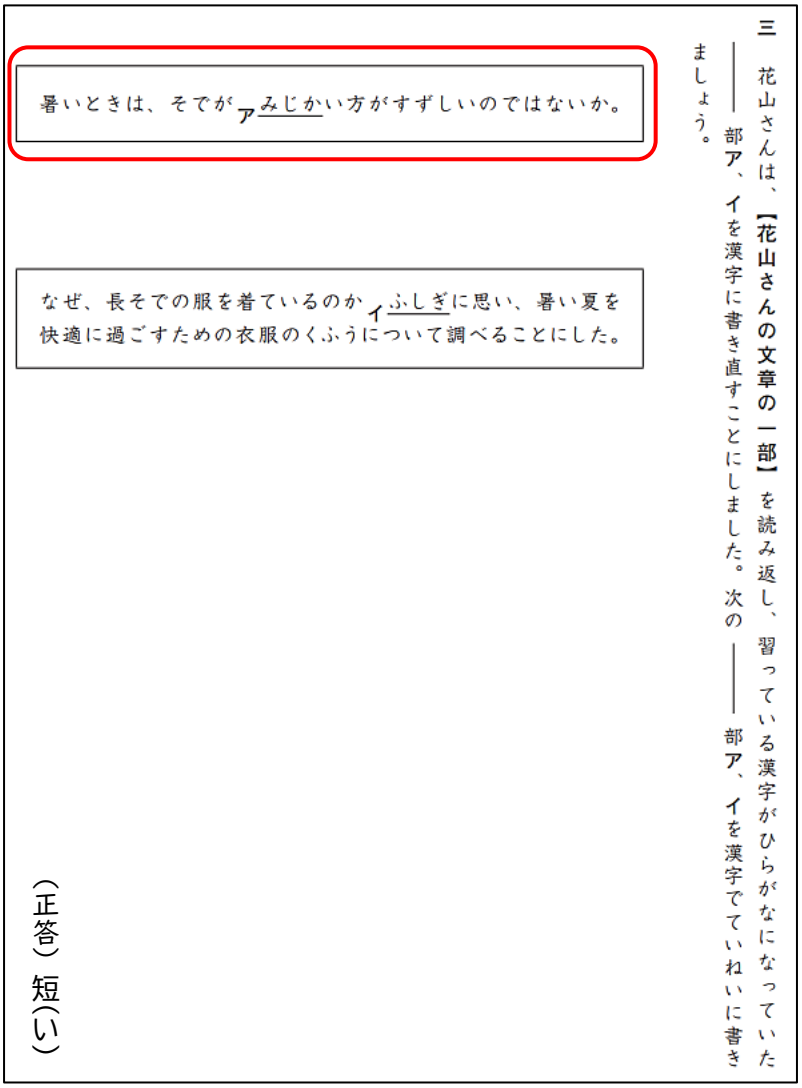
※ 学年別漢字配当表は、小学校で学習する漢字を各学年に割り当てた表であり、各学年では、前の学年に配当された漢字を書くことを身に付けるよう指導することとされています。

〔学習指導要領における内容〕

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能 （1）言葉の特徴や使い方に関する事項

〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 73.9% | 76.4% | 80.0% | -6.1 |



三 花山さんは、【花山さんの文章の一部】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた――部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の――部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。

なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

（正答）短（い）

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があると考えられます。

【小学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において無解答率が最も高い問題

3 文章を読み、考えたことをまとめる 設問三の（2）

〔出題の趣旨〕

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領における内容〕

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 70.7% | 73.8% | 76.4% | -5.7 |
| 無解答率 | 20.4% | 18.5% | 15.6% | +4.8 |

3 林さんの学級では、自分の心に残った文章について考えたことをまとめることにしました。林さんは、「『苦手』と『嫌い』」という題名の文章を選んで読んでいます。次は、林さんが読んだ【文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章】※――部①、②、③、アの内容は、あとの問いで取り上げられます。

（辻村深月 「『苦手』と『嫌い』」による。）

※「シチュエーション」……じょうきょう。立場。場面。

三 林さんは、【文章】を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の【話し合いの様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

林さん：私は「『苦手』と『嫌い』」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の（――部アを示しながら）ここの部分が特に考えさせられたんだ。

小川さん：どんなことを考えたの。

林さん：ここの部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると［　　］ということがあるよ。

小川さん：なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。

林さん：そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれど、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。

小川さん：ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

～（話し合いが続く）～

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

(2) 林さんは、小川さんと話し合ったことをもとに、改めて【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめることにしました。あなたなら、【文章】を読んで考えたことをどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉
○ 【文章】を読んで、考えたことを書くこと。
○ 【文章】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ あなたの経験を書くこと。

※左の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

（正答例）

（例） わたしは「『苦手でも好きなこと』がある」という筆者の言葉に共感しました。わたしも走ることが苦手で運動会がいやだなと思っていたけれど、休み時間におにごっこをするのは大好きです。これからは何でもきらいだと思わずに、どうすれば好きになれるかを考えたいです。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。（令和５年度【小学校】国語2四　平均正答率 49.1%）

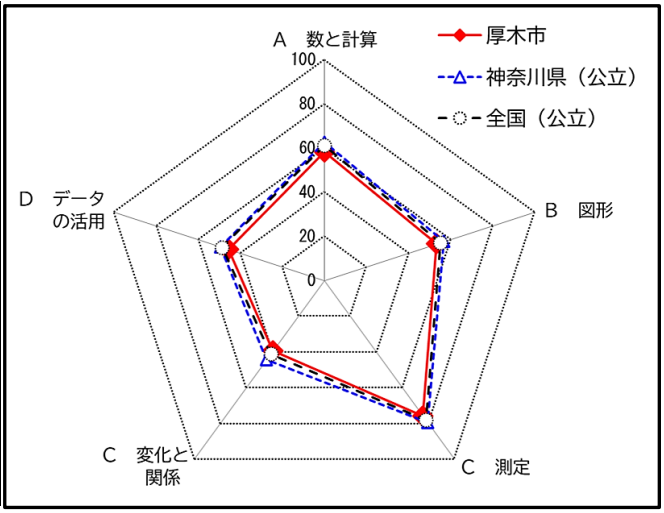
## （２）小学校　算数の結果（平均正答率）

【学習指導要領の領域】

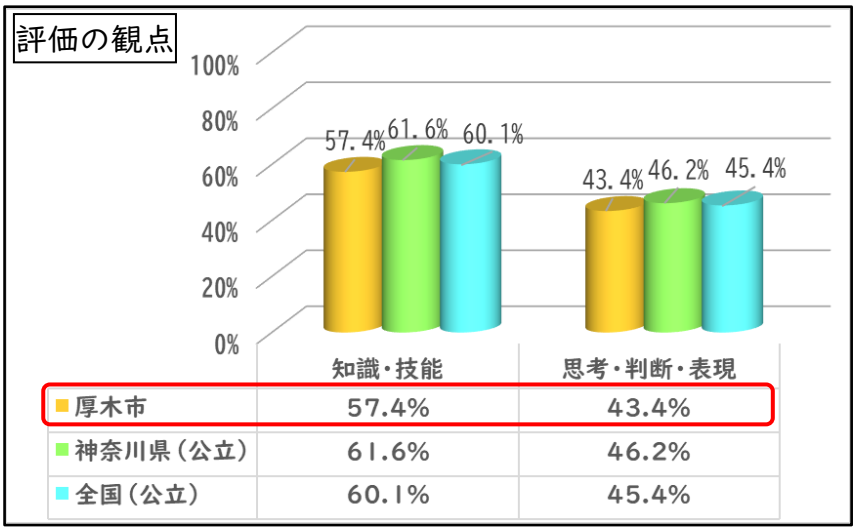
（単位：%）

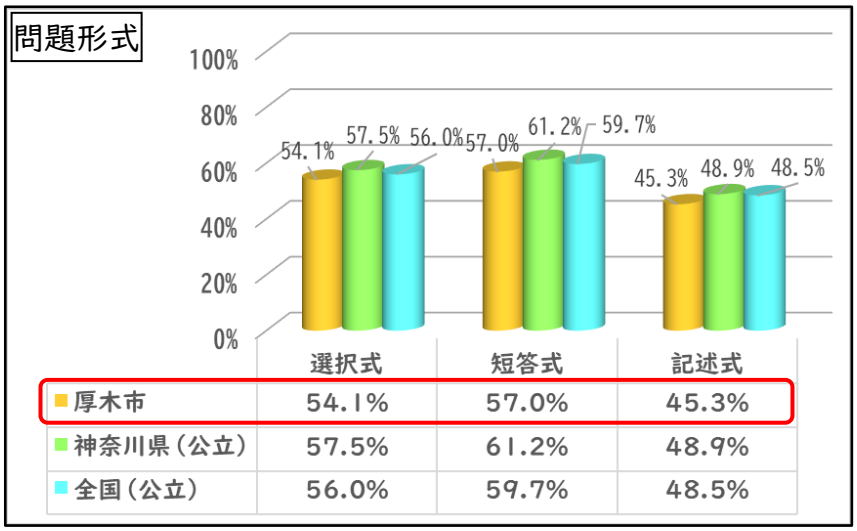
| 分　類 | 学習指導要領の領域 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 区　分 | A 数と計算 | B 図形 | C 測定 | C 変化と関係 | D データの活用 |
| 厚木市 | 58.1 | 53.3 | 76.0 | 39.5 | 45.6 |
| 神奈川県（公立） | 62.6 | 57.0 | 79.7 | 44.2 | 49.4 |
| 全国（公立） | 61.1 | 55.3 | 78.1 | 41.1 | 48.6 |

（単位：%）




全国及び神奈川県と同様に、「C　測定」は概ね理解していますが、「C　変化と関係」に課題があると考えられます。



【問題例】

【小学校　算数】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

3 小数や分数の大きさについて考察すること（数字カード） 設問（1）

〔出題の趣旨〕

小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕〔小学校4年〕 A 数と計算

〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 92.1% | 94.6% | 94.5% | -2.4 |

3

たいがさんとひまりさんは、1から9までの数字が書かれた9枚（まい）のカードを使って遊びます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

カードを裏返（うら）しにして、1人3枚ずつカードを引いて数をつくります。

たいがさんたちは、下の【ルール】で遊ぶことにしました。

【ルール】

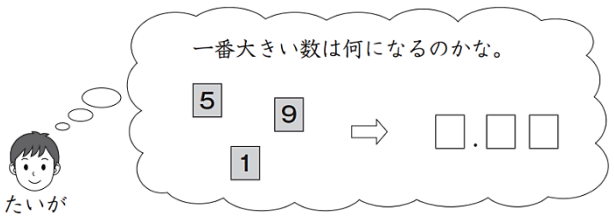
①引いたカード3枚すべてを、□に当てはめて小数をつくります。

□.□□

②大きい数をつくった方が、勝ちです。

例えば、3 7 8 を引いた場合、3.78 や 7.38 、8.73 などの数をつくることができます。

(1) たいがさんは、1 5 9 を引きました。




1、5、9を□に当てはめたときにつくることができる、一番大きい数を書きましょう。

（正答）9.51

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解していると考えられます。

【小学校 算数】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

4 日常生活の問題を解決するために、表やグラフを読み取ること（交流会） 設問（3）
〔出題の趣旨〕
二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。
〔学習指導要領の領域〕〔第4学年〕 D データの活用
〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 15.3% | 20.8% | 17.9% | -2.6 |

(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する1年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 （人）

| | | 後半 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | | あやとり | かるた | |
| 前半 | あやとり | 4 | 9 | 13 |
| | かるた | 8 | 7 | 15 |
| 合計 | | 12 | 16 | 28 |

さくらさんたちは、あやとりに参加する1年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㋐ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑ 人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。 （正答）㋐ 13 ㋑ 8

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題があると考えられます。
（令和３年度小学校算数 3(3) 平均正答率 65.1%）

【小学校 算数】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題

Ⅰ 図形を構成する要素に着目し、立体図形について考察すること（立方体・直方体）設問（1）

〔出題の趣旨〕

立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕〔第5学年〕 B 図形

〔評価の観点〕 知識・技能

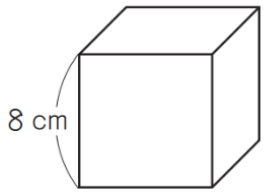
| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 66.8% | 69.2% | 72.7% | -5.9 |

1

立方体や直方体について考えます。

(1) 1辺が8 cmの立方体の体積が何 $cm^3$ かを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。

（正答）8×8×8




この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

立方体の特徴や、体積の計算による求め方について理解に課題があると考えられます。

【小学校 算数】 本市、全国及び神奈川県において無解答率が最も高い問題

2 二つの数量の関係について考察すること（動物園）設問（2）

〔出題の趣旨〕

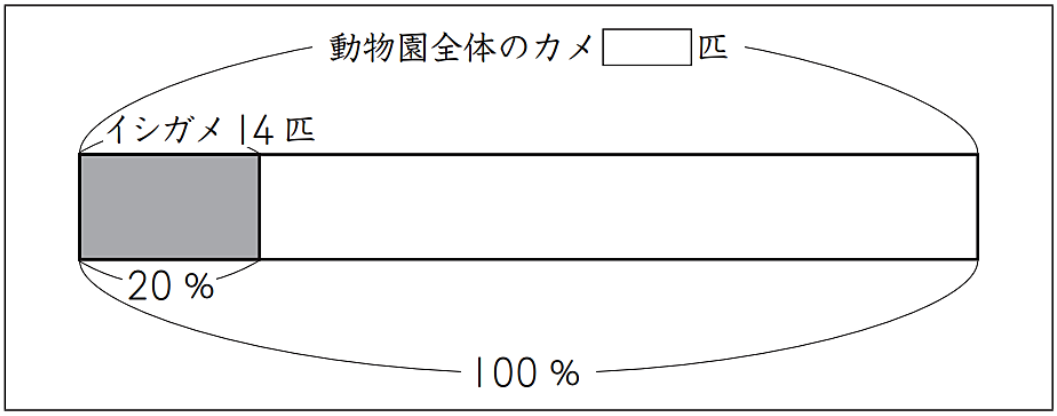
百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕〔第5学年〕 C 変化と関係

〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 50.2% | 55.5% | 53.1% | -2.9 |
| 無解答率 | 8.6% | 8.9% | 7.2% | +1.4 |

(2) この動物園にはいろいろなカメがいます。そのうちイシガメは 14 匹（ひき）います。イシガメの数は動物園全体のカメの数の 20 %です。




この動物園全体にはカメが何匹いますか。

求める式とその答えを書きましょう。

（正答）【式】（例） 14÷0.2

【答え】 70（匹）

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることに課題があると考えられます。（平成 24 年度小学校算数A 8 平均正答率（国公私立）58.7%）

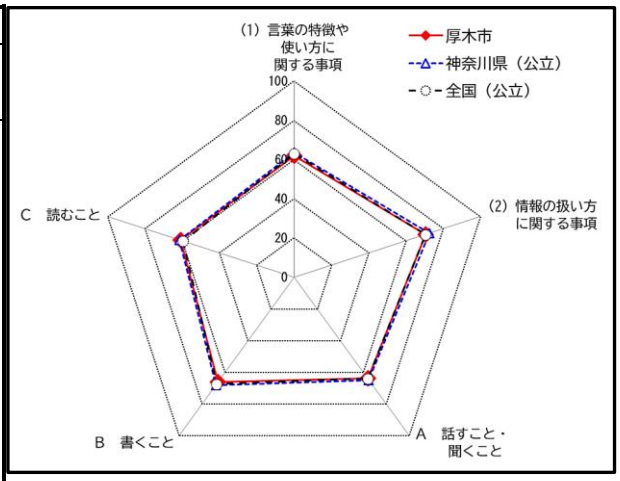
## （３）中学校　国語の主な結果（平均正答率）

【学習指導要領の内容】

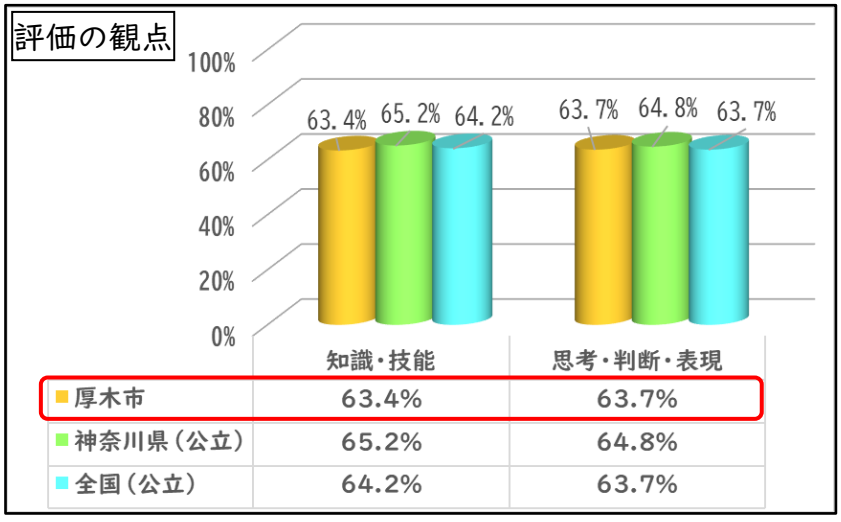
（単位：%）

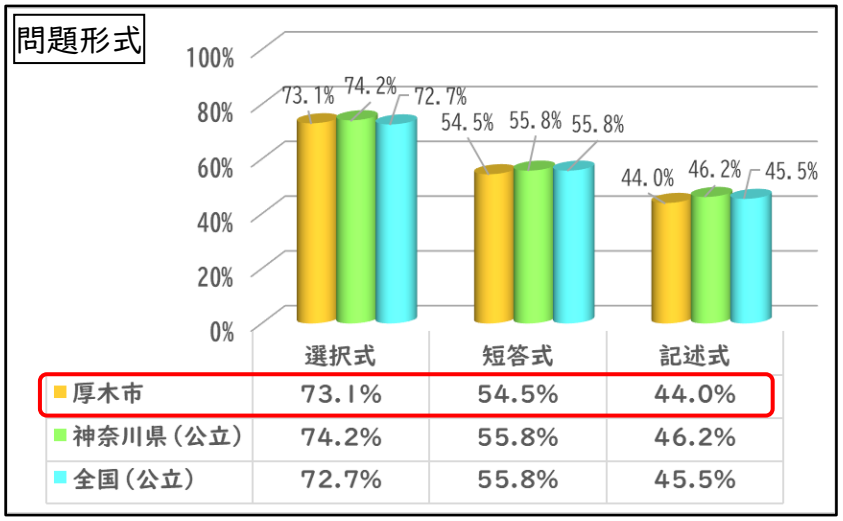
| 分　類 | 学習指導要領の内容 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 知識及び技能 | | | 思考力，判断力，表現力等 | | |
| 区　分 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | (2)情報の扱い方に関する事項 | (3)我が国の言語文化に関する事項 | A 話すこと・聞くこと | B 書くこと | C 読むこと |
| 厚木市 | 62.0 | 70.4 | － | 63.9 | 66.2 | 61.0 |
| 神奈川県(公立) | 63.6 | 72.7 | － | 64.8 | 68.1 | 61.5 |
| 全国(公立) | 63.0 | 70.4 | － | 63.9 | 67.4 | 59.7 |

（単位：%）




全ての内容で６割以上ができていると見て取れます。



【問題例】

【中学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

3 経験したことを基に随筆を書く 設問ニ

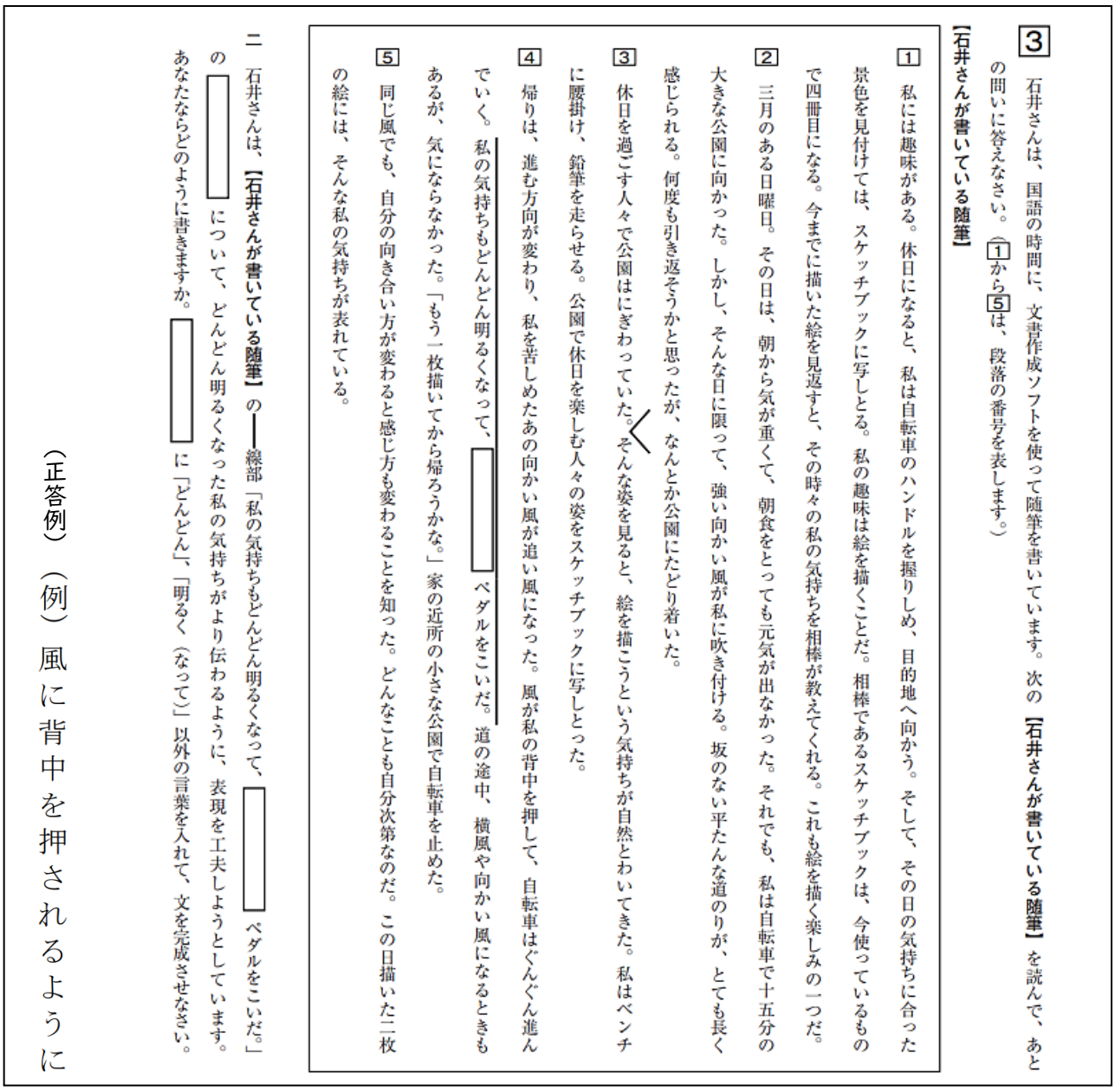
〔出題の趣旨〕

表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領における内容〕〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 92.8% | 92.7% | 92.3% | +0.5 |



3 石井さんは、国語の時間に、文書作成ソフトを使って随筆を書いています。次の【石井さんが書いている随筆】を読んで、あとの問いに答えなさい。（1から5は、段落の番号を表します。）

【石井さんが書いている随筆】

1 私には趣味がある。休日になると、私は自転車のハンドルを握りしめ、目的地へ向かう。そして、その日の気持ちに合った景色を見付けては、スケッチブックに写しとる。私の趣味は絵を描くことだ。相棒であるスケッチブックは、今使っているもので四冊目になる。今までに描いた絵を見返すと、その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる。これも絵を描く楽しみの一つだ。

2 三月のある日曜日。その日は、朝から気が重くて、朝食をとっても元気が出なかった。それでも、私は自転車で十五分の大きな公園に向かった。しかし、そんな日に限って、強い向かい風が私に吹き付ける。坂のない平たんな道のりが、とても長く感じられる。何度も引き返そうかと思ったが、なんとか公園にたどり着いた。

3 休日を過ごす人々で公園はにぎわっていた。そんな姿を見ると、絵を描こうという気持ちが自然とわいてきた。私はベンチに腰掛け、鉛筆を走らせる。公園で休日を楽しむ人々の姿をスケッチブックに写しとった。

4 帰りは、進む方向が変わり、私を苦しめたあの向かい風が追い風になった。風が私の背中を押して、自転車はぐんぐん進んでいく。私の気持ちもどんどん明るくなって、［　　］ペダルをこいだ。道の途中、横風や向かい風になるときもあるが、気にならなかった。「もう一枚描いてから帰ろうかな。」家の近所の小さな公園で自転車を止めた。

5 同じ風でも、自分の向き合い方が変わると感じ方も変わることを知った。どんなことも自分次第なのだ。この日描いた二枚の絵には、そんな私の気持ちが表れている。

ニ 石井さんは、【石井さんが書いている随筆】の――線部「私の気持ちもどんどん明るくなって、［　　］ペダルをこいだ。」の［　　］について、どんどん明るくなった私の気持ちがより伝わるように、表現を工夫しようとしています。あなたならどのように書きますか。［　　］に「どんどん」、「明るく（なって）」以外の言葉を入れて、文を完成させなさい。

（正答例）（例）風に背中を押されるように

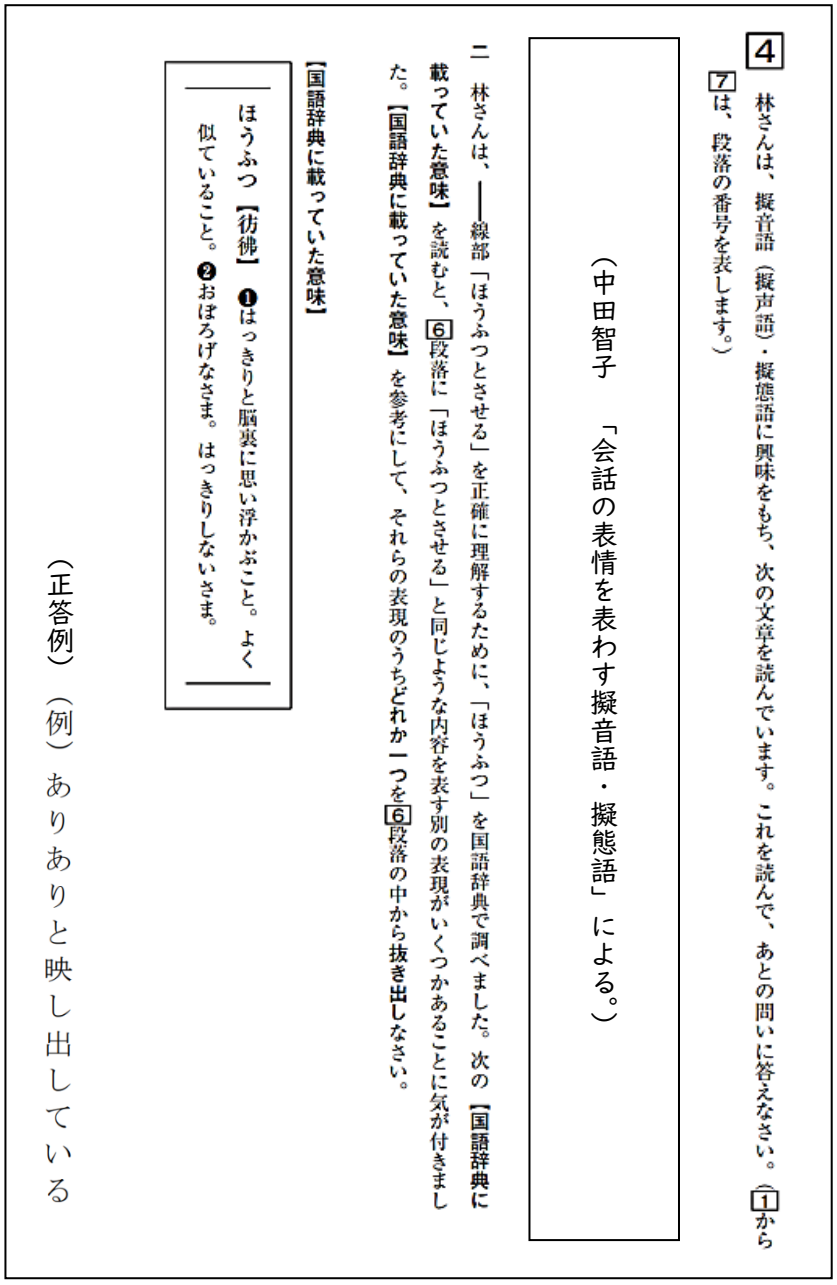
この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

9割以上の生徒が、表現の効果を考えて描写することができていると考えられます。

【中学校 国語】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題
本市、全国及び神奈川県において無解答率が最も高い問題

4 説明的な文章を読んで理解したことをノートにまとめる 設問ニ
〔出題の趣旨〕
語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる。
〔学習指導要領における内容〕
〔第1学年〕 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県(公立) | 全国(公立) | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 34.1% | 37.1% | 35.2% | -1.1 |
| 無解答率 | 19.6% | 18.3% | 19.8% | -0.2 |



4 林さんは、擬音語(擬声語)・擬態語に興味をもち、次の文章を読んでいます。これを読んで、あとの問いに答えなさい。①から⑦は、段落の番号を表します。)

(中田智子 「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。)

ニ 林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の【国語辞典に載っていた意味】を読むと、⑥段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを⑥段落の中から抜き出しなさい。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ【彷彿】 ❶はっきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。❷おぼろげなさま。はっきりしないさま。

(正答例) (例)ありありと映し出している

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題があると考えられます。

【中学校 国語】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題

3 経験したことを基に随筆を書く 設問四

〔出題の趣旨〕

表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領における内容〕〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 41.2% | 45.4% | 45.0% | -3.8 |

本文は、一六ページをご覧ください。

四 石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。【1段落についての交流場面①】をもとにした【メモ①】の書き方を参考にしながら、【1段落についての交流場面②】をもとにして【メモ②】を書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【1段落についての交流場面①】

石井 1段落で、絵を描くことが趣味だということを印象付けるように工夫したのですが、どうでしたか。

山田 最初の「私には趣味がある。」という一文で、趣味は何だろうと知りたくなり、先を読みたくなりました。

田中 私もそう思いました。

【1段落についての交流場面②】

石井 スケッチブックを「相棒」と表現したことはどうですか。

田中 「その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。

山田 スケッチブックは今までの自分の気持ちが詰まっているものだから、「相棒」よりふさわしい比喩もあるのではないかと思いました。

【メモ①】

〈よい点や改善点〉

冒頭で「私には趣味がある。」と趣味が何かを明かさないことによって、読み手に先を読みたいと思わせることができた。

〈生かしたいこと〉

随筆を書くときは、書き出しの工夫をする。

【メモ②】

〈よい点や改善点〉

〈生かしたいこと〉

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

（正答例）

〈よい点や改善点〉 スケッチブックを「相棒」と表現したのはよかった。しかし、他にもふさわしい言葉があったかもしれない。

〈生かしたいこと〉 読み手の印象に残るように比喩を用いる。その際、選んだ言葉がふさわしいかどうかを考える。

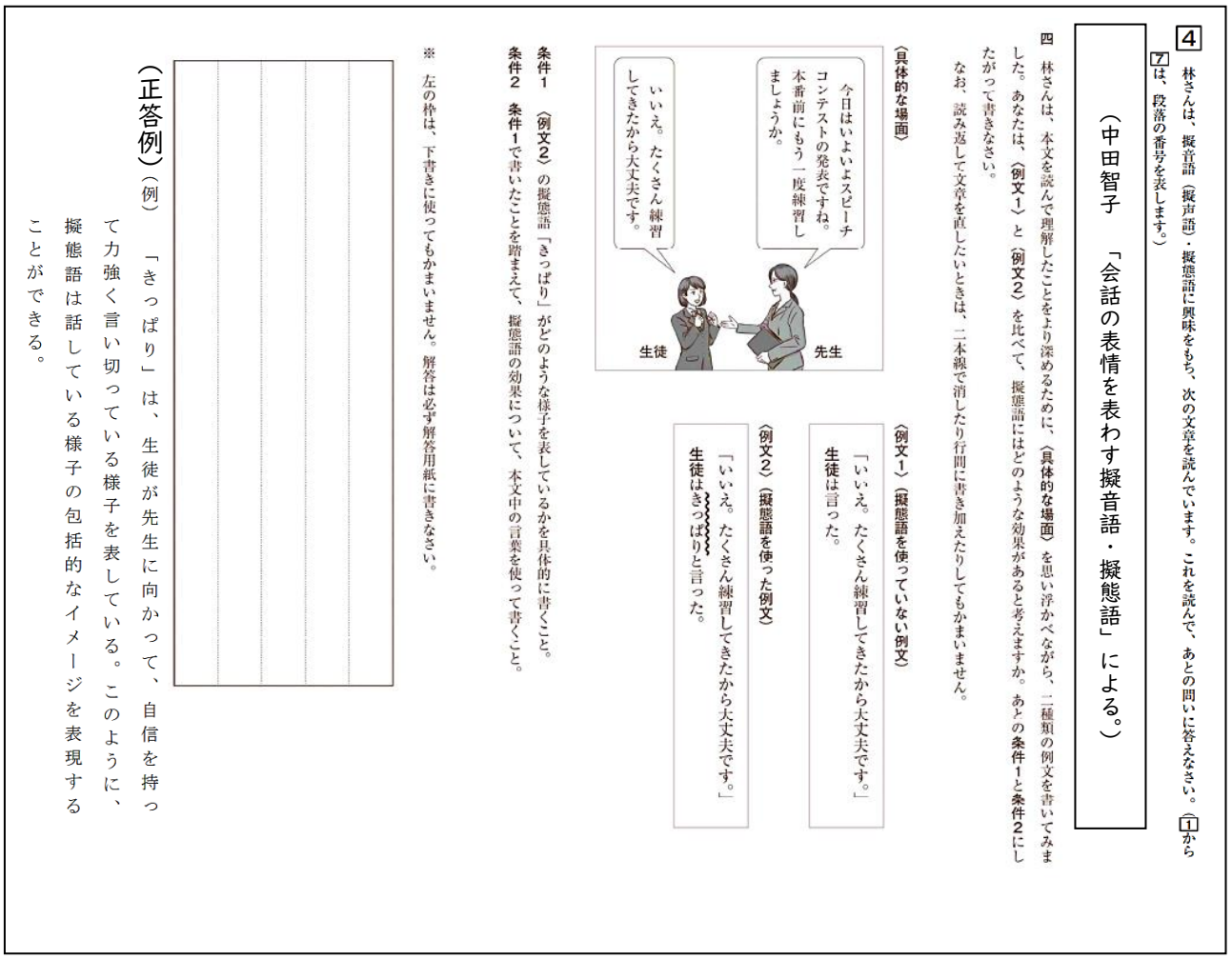
この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことに課題があると考えられます。

【中学校 国語】
「C 読むこと」の問題の中で本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

4 説明的な文章を読んで理解したことをノートにまとめる 設問四
〔出題の趣旨〕
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる。
〔学習指導要領における内容〕〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 39.5% | 40.8% | 38.9% | +0.6 |


4 林さんは、擬音語（擬声語）・擬態語に興味をもち、次の文章を読んでいます。これを読んで、あとの問いに答えなさい。㋐から㋖は、段落の番号を表します。）

（中田智子 「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。）

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉



〈例文1〉（擬態語を使っていない例文）
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉（擬態語を使った例文）
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件1 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

（正答例）（例） 「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題があると考えられます。（令和５年度小学校国語2四 平均正答率 49.1%）

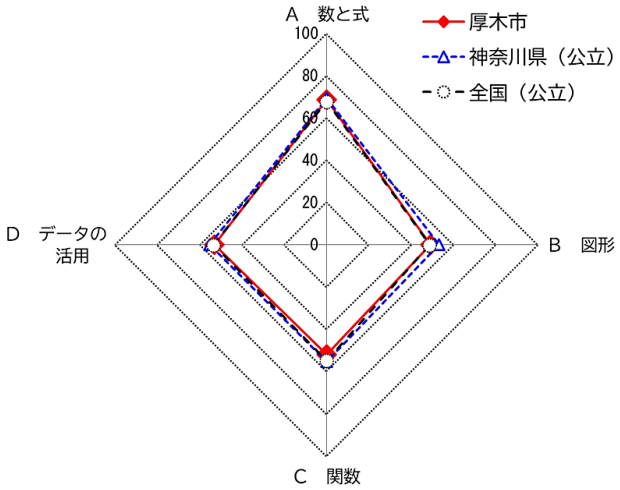
## （４）中学校　数学の主な結果（平均正答率）

【学習指導要領の領域】

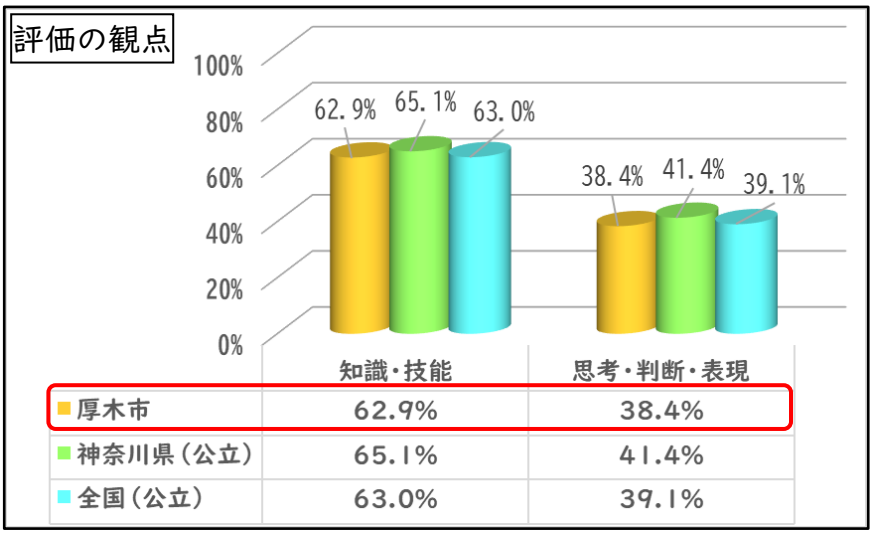
（単位：％）

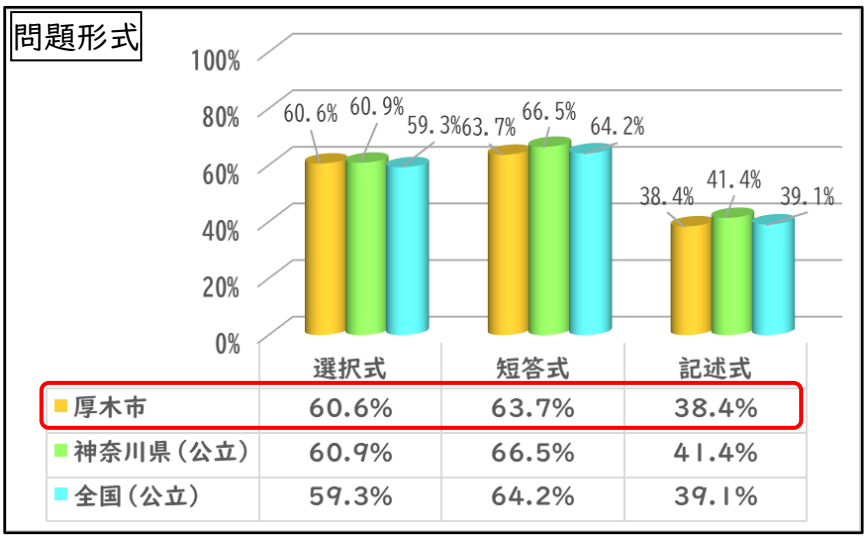
| 分　類 | 学習指導要領の領域 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 区　分 | A 数と式 | B 図形 | C 関数 | D データの活用 |
| 厚木市 | 68.6 | 49.2 | 52.1 | 53.2 |
| 神奈川県（公立） | 69.5 | 53.1 | 55.3 | 55.4 |
| 全国(公立) | 67.8 | 48.7 | 54.8 | 53.5 |

（単位：％）




全国及び神奈川県と同様に、「Ｂ　図形」の理解に課題があります。



【問題例】

【中学校 数学】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

Ⅰ 正の数・負の数

〔出題の趣旨〕

・数や式などを活用して、数学的に処理することができるかどうかをみる。

・具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕〔第１学年〕 A 数と式

〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 86.5% | 87.4% | 85.7% | +0.8 |

1 ２月３日のＡ市の最高気温は５℃、最低気温は －４℃でした。この日のＡ市の最高気温と最低気温について、次のことがいえます。

２月３日のＡ市の最高気温は、最低気温より □ ℃高い。

このとき、□ に当てはまる数を求めなさい。 （正答）９

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができていると考えられます。

【中学校 数学】 本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

9 データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること（睡眠時間）設問（3）

〔出題の趣旨〕

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕〔第1学年〕 D データの活用

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 30.7% | 32.1% | 31.9% | -1.2 |

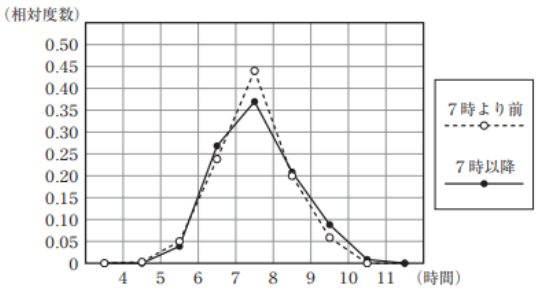
（3）二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

桃音さん…起床時刻が7時より前と7時以降の生徒に分ける
悠真さん…就寝時刻が23時より前と23時以降の生徒に分ける

桃音さんは、起床時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

**桃音さんが調べたこと**

起床時刻が7時より前の生徒･･･211人
起床時刻が7時以降の生徒･････ 89人




桃音さんは、上の2つの度数分布多角形を比較して、次のようにまとめました。

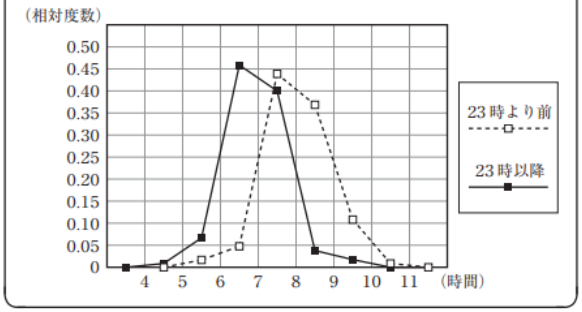
**桃音さんのまとめ**

2つの度数分布多角形は同じような形である。また、2つの度数分布多角形はほぼ同じ位置にある。
したがって、起床時刻が7時より前の生徒と7時以降の生徒の睡眠時間は同じような傾向にある。

悠真さんは、就寝時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形に表しました。

**悠真さんが調べたこと**

就寝時刻が23時より前の生徒･･･152人
就寝時刻が23時以降の生徒･････148人




**悠真さんが調べたこと**の2つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、**悠真さんが調べたこと**の2つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの**桃音さんのまとめ**を参考にして、下の**説明**を完成しなさい。

**説明**

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

（正答例） **説明**（例） 二つの度数分布多角形が同じような形で、就寝時刻が23時より前の生徒の度数分布多角形よりも、就寝時刻が23時以降の生徒の度数分布多角形の方が左側にある。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに課題があると考えられます。（令和3年度【中学校】数学 8 （3） 平均正答率 10.5%）
※度数分布多角形：データのばらつきの様子を表す折れ線グラフの一種です。

【中学校 数学】
「B 図形」の問題の中で本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

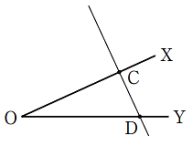
8 筋道を立てて証明し、図形を考察すること（2倍の大きさの角の作図）設問（3）
〔出題の趣旨〕
具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる。
〔学習指導要領の領域〕〔第２学年〕 B 図形
〔評価の観点〕知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 37.8% | 39.7% | 37.1% | +0.7 |

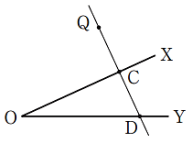
（3） 13ページの**手順**で示した作図とは違う方法で、∠XOYの２倍の大きさの角を作図する方法を考えます。

**方法**

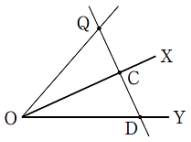
① 辺OX上に適当な点Cをとり、点Cを通る辺OXの垂線をひき、辺OYとの交点をDとする。




② 直線CD上に線分CDと線分CQの長さが等しくなるように、辺OXに対して点Dと反対側に点Qをとる。

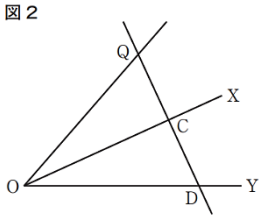



③ 直線OQをひく。




次の**図２**は、前ページの**方法**によって作図したものです。この**図２**において、∠QODが∠XOYの２倍の大きさであること、つまり∠COD＝∠COQであることの証明を考えます。

**図２**




そこで、**方法**の①、②のそれぞれから直接わかることを仮定とし、証明することがらを次のように表します。

**図２**において、
［ Ⅰ ］、［ Ⅱ ］ ならば ∠COD＝∠COQ である。

上の［ Ⅰ ］には、**図２**において**方法**の①から直接わかること、［ Ⅱ ］には、**図２**において**方法**の②から直接わかることが入ります。［ Ⅰ ］、［ Ⅱ ］のそれぞれに当てはまるものを、下のアからオまでの中から１つずつ選びなさい。

ア CD＝CQ

イ OD＝OQ

ウ ∠ODC＝∠OQC

エ ∠COD＝∠COQ

オ OX⊥CD

（正答） Ⅰ オ Ⅱ ア

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

作図によってできた図形と作図の操作を関連付けて、証明すべき事柄の仮定となる辺や角の関係を見いだすことに課題があると考えられます。

【中学校 数学】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題

4 反比例

〔出題の趣旨〕

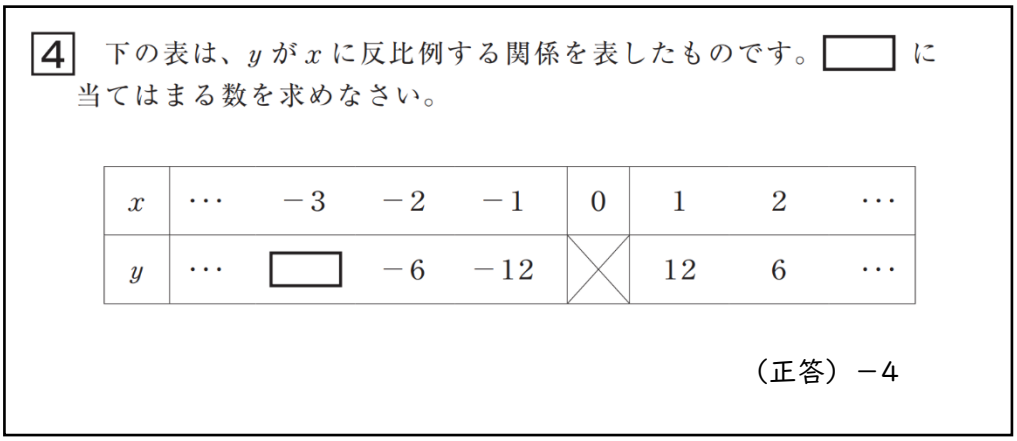
・ 数や式、表、グラフなどを活用して、数学的に処理することができるかどうかをみる。

・ 反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、x の値に対応する y の値を求めること。

〔学習指導要領の領域〕 〔第１学年〕 C 関数

〔評価の観点〕 知識・技能

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 49.2% | 53.1% | 55.3% | -6.1 |



4 下の表は、$y$ が $x$ に反比例する関係を表したものです。□ に当てはまる数を求めなさい。

| $x$ | $\cdots$ | $-3$ | $-2$ | $-1$ | 0 | 1 | 2 | $\cdots$ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $y$ | $\cdots$ | □ | $-6$ | $-12$ | | 12 | 6 | $\cdots$ |

（正答）－4

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、x の値に対応する y の値を求めることに課題があると考えられます。（平成 24 年度【中学校】数学 A 10 （１）平均正答率（全国）51.4%）

【中学校 数学】本市、全国及び神奈川県において無解答率が最も高い問題

7 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立て解決すること（動画の時間とデータ量）設問（2）

〔出題の趣旨〕

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕 〔第１学年〕 C 関数

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 32.4% | 36.7% | 33.9% | −1.5 |
| 無解答率 | 41.1% | 37.3% | 39.6% | +1.5 |

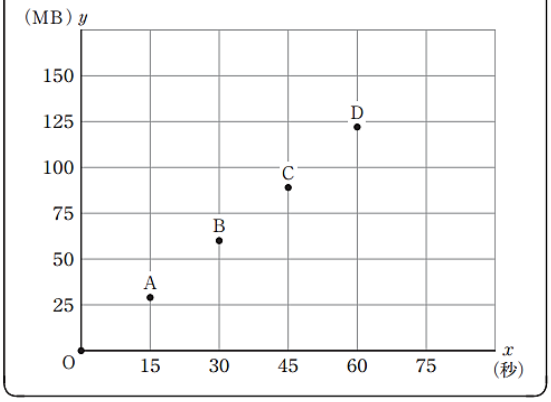
7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MB（メガバイト）までにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が $x$ 秒のときのデータ量を $y$ MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



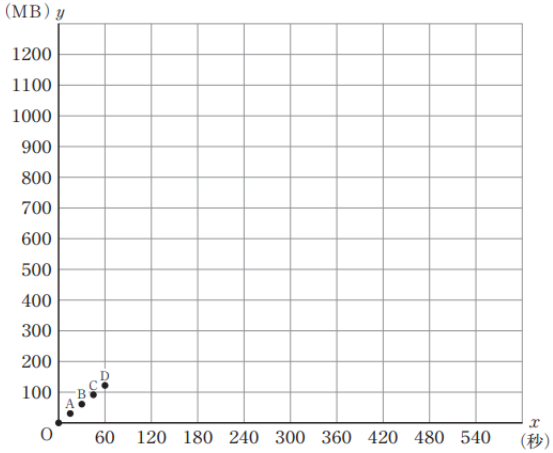
調べた結果

| $x$（秒） | 0 | 15 | 30 | 45 | 60 |
|---|---|---|---|---|---|
| $y$（MB） | 0 | 29 | 60 | 89 | 122 |




（2）光希さんは、1000 MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの**調べた結果**を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ




**動画の時間とデータ量のグラフ**において、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、$x$ 座標や $y$ 座標、$x$ の値や $y$ の値など、$x$ や $y$ を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

（正答例） **説明**（例） 原点Oから点Dをもとに、直線のグラフをかき、$y$ 座標が1000のときの $x$ 座標を読む。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があると考えられます。

（令和７年度【中学校】数学 8 （2）平均正答率 37.7%）
（令和４年度【中学校】数学 8 （2）平均正答率 36.7%）
（令和３年度【中学校】数学 7 （2）平均正答率 26.3%）
（平成 29 年度【中学校】数学Ｂ 3 （2）平均正答率 17.3%）

## （５）中学校　英語（４技能）の結果（平均正答数及び IRT バンド）

【平均正答数集計値】

| | 生徒数 | 平均正答数 | 標準偏差 |
|---|---|---|---|
| 厚木市 | 1,474 | 4.3 / 9 | 2.5 |
| 神奈川県（公立） | 53,734 | 5.0 / 9 | 2.5 |
| 全国（国公私立） | 46,645 | 4.5 / 9 | 2.5 |

※5 調査対象の生徒全員が取り組んだ公開問題数は、9問でした。

※6 「全国（国公私立）」の値は、統計的に抽出され、英語4技能を当日に実施した学校の生徒の結果を集計したものです。

※7 標準偏差とは、集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばり度合い）を表す数値のことです。

【技能別平均正答数集計値】

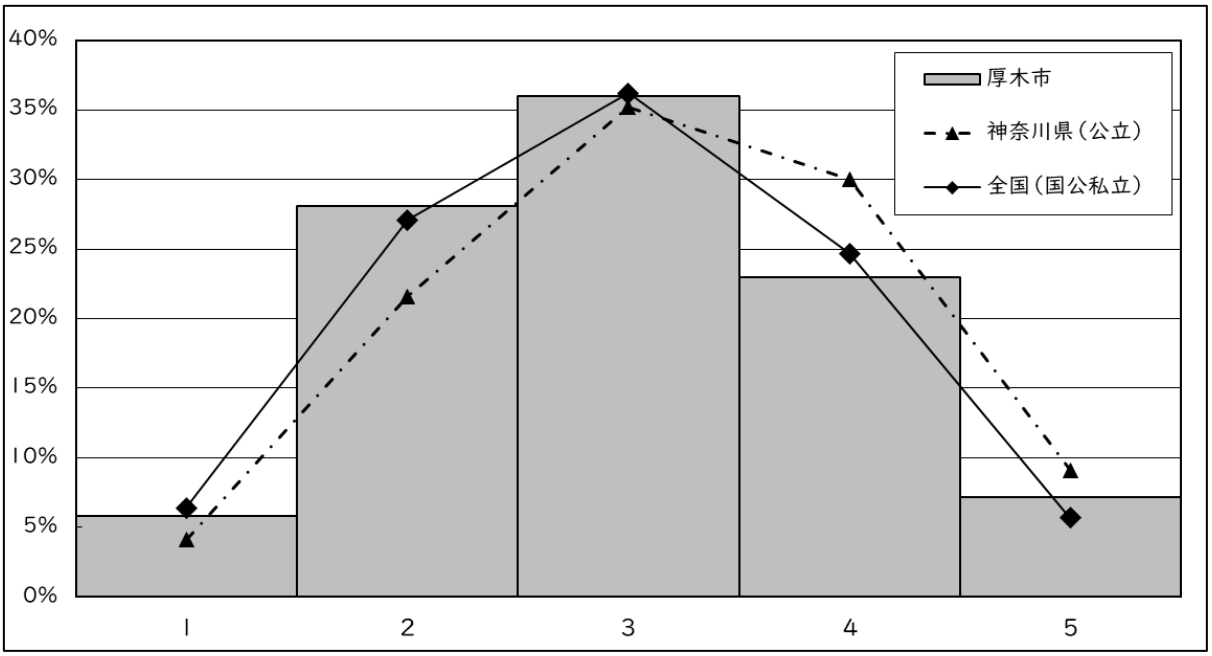
| | 聞くこと | 読むこと・書くこと | 話すこと |
|---|---|---|---|
| 厚木市 | 1.1 / 2 | 2.5 / 5 | 0.7 / 2 |
| 神奈川県（公立） | 1.3 / 2 | 2.9 / 5 | 0.7 / 2 |
| 全国（国公私立） | 1.2 / 2 | 2.6 / 5 | 0.7 / 2 |

※8 調査対象の生徒全員が取り組んだ「聞くこと」に関する公開問題数は、2問でした。

※9 調査対象の生徒全員が取り組んだ「読むこと」「書くこと」に関する公開問題数は、5問でした。

※10 調査対象の生徒全員が取り組んだ「読むこと」「書くこと」に関する公開問題数は、2問でした。

【IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：割合）】※11




※11 「IRT バンド」とは、IRT スコアを1から5段階に区切ったものです。「3」を基準のバンドとし、「5」が最も高いバンドとなります。生徒の正答状況から推定した結果であり、学習評価で用いられている評定とは異なります。IRT バンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

【中学校 英語】本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

3 自分の置かれた状況などから判断して、必用な情報を聞き取る

〔出題の趣旨〕

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必用な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領における目標〕 聞くこと

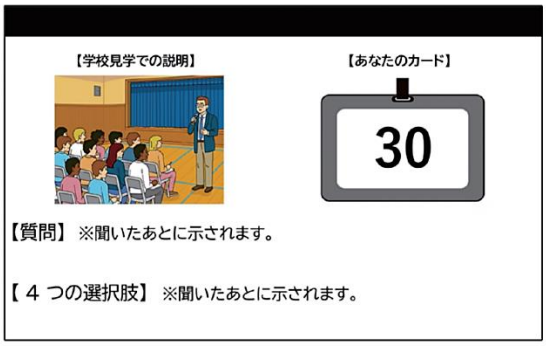
〔評価の観点〕 思考・判断・・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 78.7% | 79.7% | 76.0% | +2.7 |

【画面１】

<問題文>

あなたは、留学先で学校見学に参加し、体育館で先生の説明を聞くところです。【あなたのカード】の番号は「 30 」です。先生の説明を聞いたあと、【質問】が流れます。そのあと【４つの選択肢】が示されます。質問の答えとして最も適切なものを、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



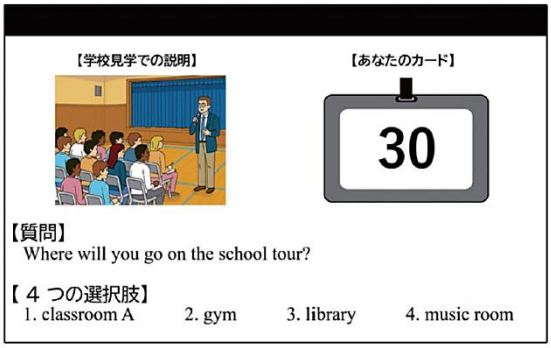

<解答欄>

○1 ○2 ○3 ○4

【画面２】

<問題文>

あなたは、留学先で学校見学に参加し、体育館で先生の説明を聞くところです。【あなたのカード】の番号は「 30 」です。先生の説明を聞いたあと、【質問】が流れます。そのあと【４つの選択肢】が示されます。質問の答えとして最も適切なものを、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。




英語の音声スクリプト【画面１】

Thank you for joining our school tour. Please look at the number on your card. I will tell you the place to go and the thing to do.
Number 1 to number 10, please stay in the gym. You will watch a movie about school life.
Number 11 to number 20, please go to classroom A. You will experience a math class.
Number 21 to number 30, please go to the music room. You will listen to the school song.
Number 31 to number 40, please go to the library. You will talk with our students.
Enjoy your tour!

英語の音声スクリプト【画面２】

Question: Where will you go on the school tour?

（正答）４

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必用な情報を聞き取ることができていると考えられます。

【中学校 英語】 本市及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題
本市、全国及び神奈川県において無解答率が最も高い問題

19 話を聞いて、考えとその理由を話す

〔出題の趣旨〕

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる。

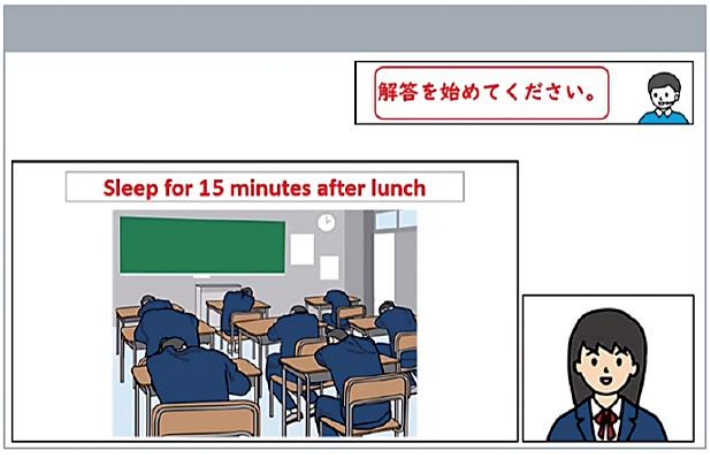
〔学習指導要領における目標〕 話すこと［発表］

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 24.1% | 28.4% | 25.8% | -1.7 |
| 無解答率 | 21.8% | 20.1% | 17.0% | +4.8 |

<問題文>

あなたは、英語の授業で、オンライン交流をしている中学生のかおりと「学校生活をよりよくする方法」について話し合っています。発表を聞き、かおりの意見に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で答えましょう。【考える時間１分 解答時間 30 秒】




英語の音声スクリプト

At school, I often become sleepy in the afternoon. I think we should sleep for 15 minutes after lunch because we will feel better and can study harder later. Some classmates agree with my idea, but other classmates don't agree because they want to talk with their friends more. My idea is we should sleep for 15 minutes after lunch. Do you think my idea is good? And why?

（正答例）

（例） It's a good idea because many students will study harder if they sleep after lunch.

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題があると考えられます。（令和５年度【中学校】話すこと英語 2 平均正答率 5.3%）

【中学校 英語】 全国（公立）の平均正答率との差が最も大きい問題

12 まとまりのある文章を書く

〔出題の趣旨〕

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領における目標〕 書くこと

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

| | 厚木市 | 神奈川県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 平均正答率 | 40.0% | 52.1% | 47.5% | -7.5 |

あなたは、中学生になってからの思い出（My Memory）を【英語新聞】にまとめることになりました。思い出を１つ取り上げ、「そこであなたが体験したこと」と「感想」を、15 語以上 30 語以内の英語で書きなさい。なお、思い出は下の【例】を参考にしてもかまいません。

【英語新聞】




【例】

- 学校行事
  - 文化祭（the school festival）
  - 体育祭（the sports festival）
  - 音楽祭（the music festival）
  - 修学旅行（the school trip）
  - 職場体験（the work experience）
- 授業
- 習い事
- 趣味
- 日常の出来事
- その他

＜解答欄＞ ※半角で入力してください

0 ／最大999 単語

（正答例）

（例） My best memory is the school trip. I went to Kyoto in April. I saw a lot of temples and shrines there. They were very beautiful. （26 語）

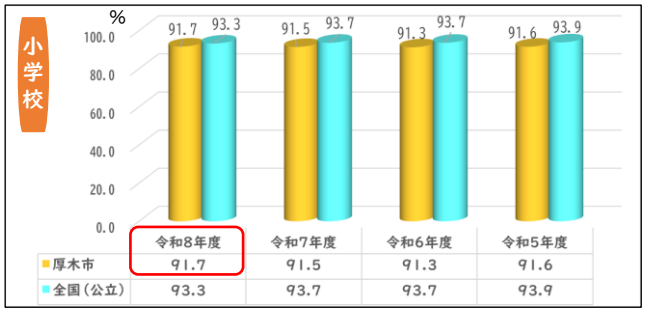
この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

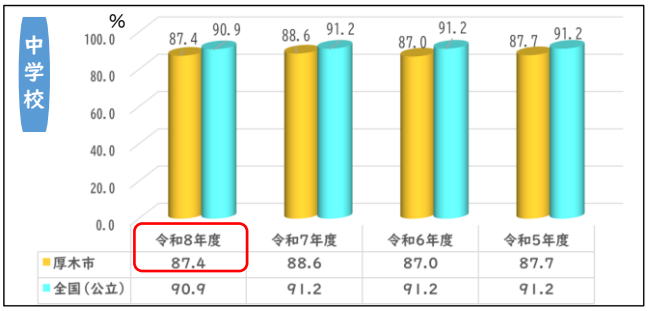
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題があると考えられます。（令和５年度【中学校】英語 10 平均正答率 7.0%）

## 4　児童・生徒質問調査の主な結果

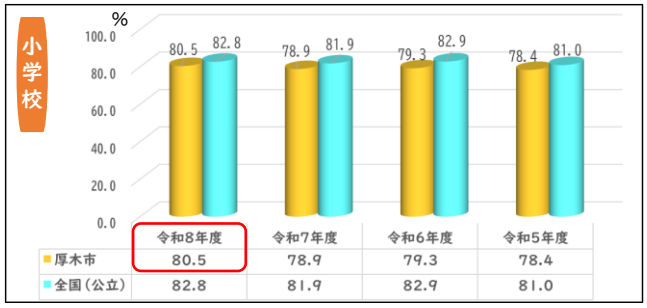
### ア　基本的生活習慣等

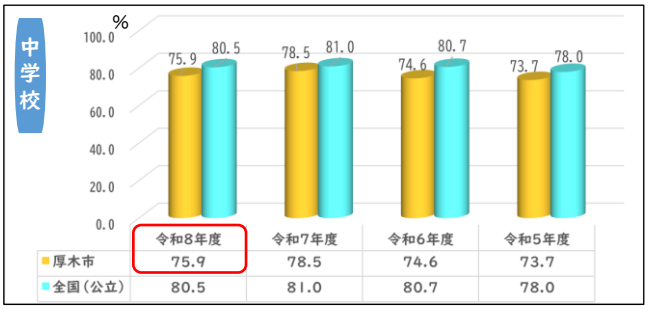
質問１　朝食を毎日食べている（している・どちらかといえば、している）



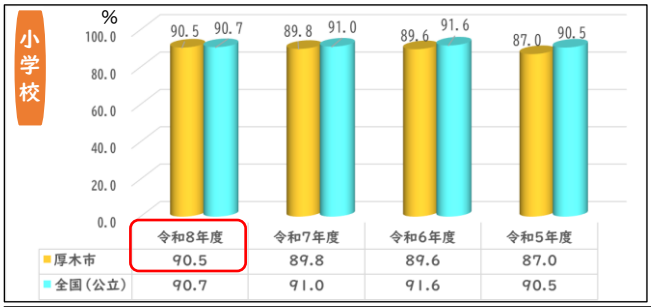



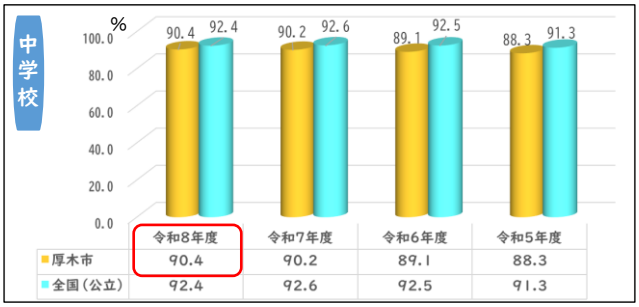

質問２　毎日、同じくらいの時刻に寝ている（している・どちらかといえば、している）



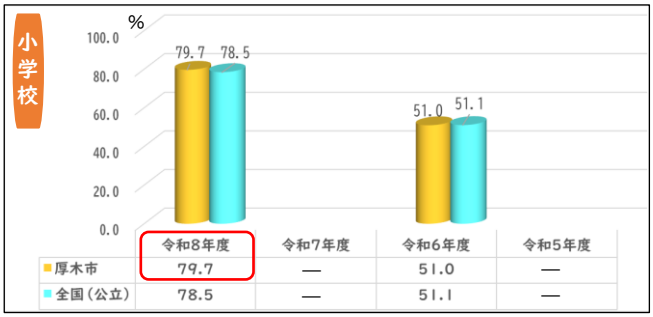



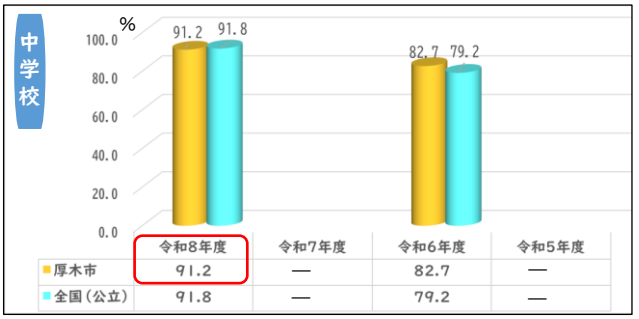

質問３　毎朝、同じくらいの時刻に起きている（している・どちらかといえば、している）



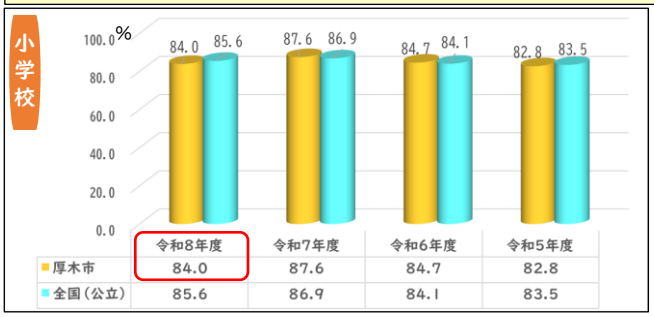

質問４　普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）（１時間以上）

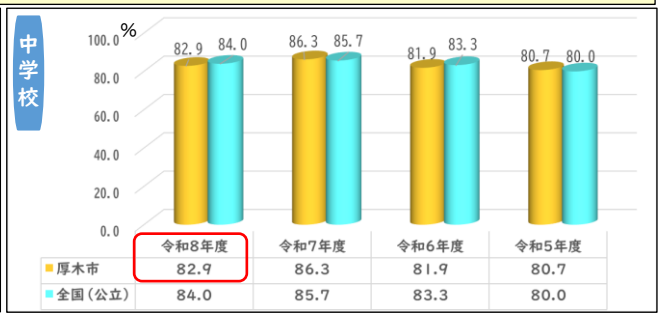


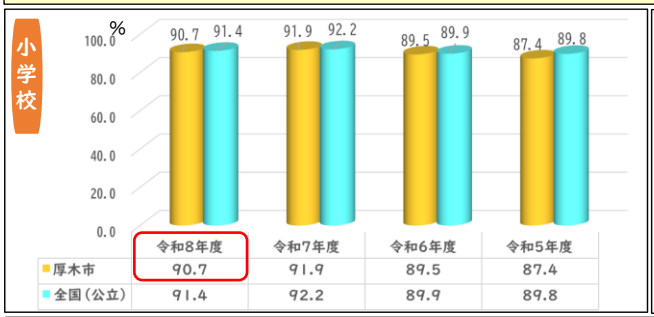
## イ　挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

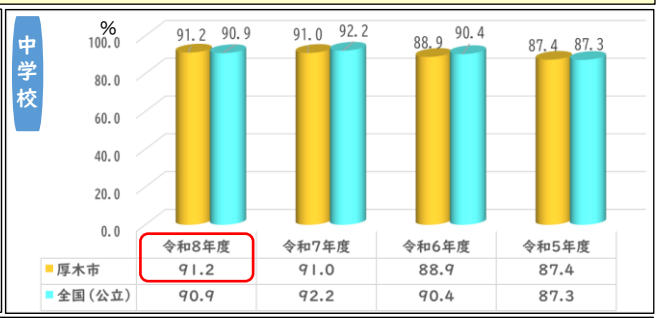
### 質問８　自分には、よいところがある（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



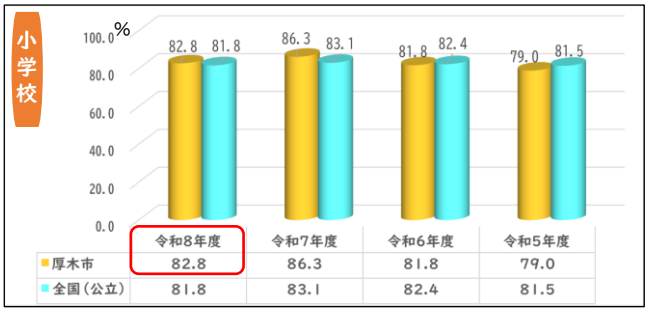



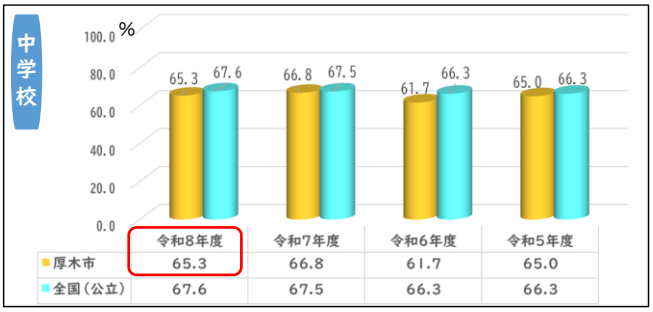

### 質問９　先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



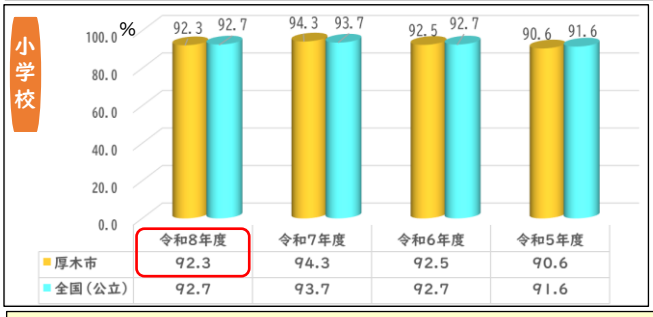



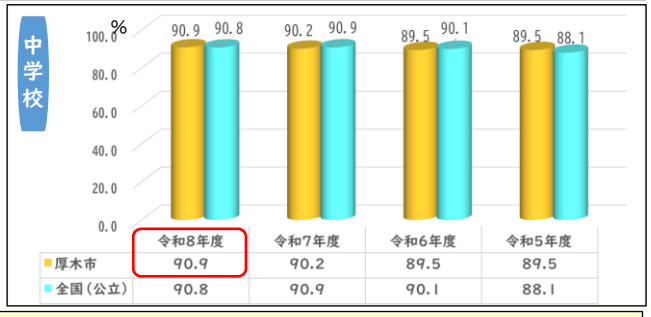

### 質問１０　将来の夢や目標を持っている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



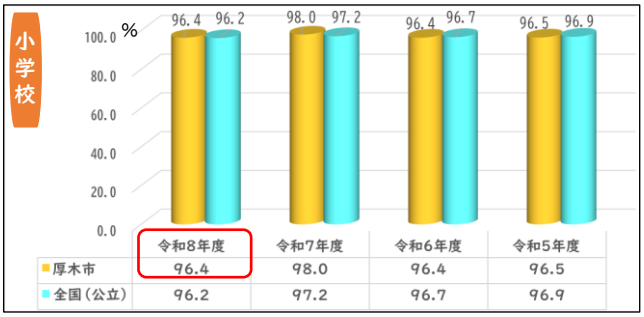



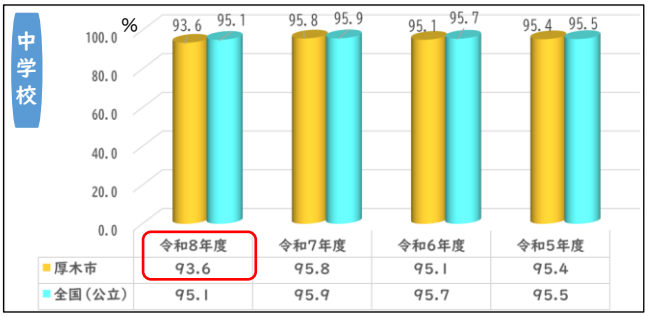

### 質問１１　人が困っているときは、進んで助けている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



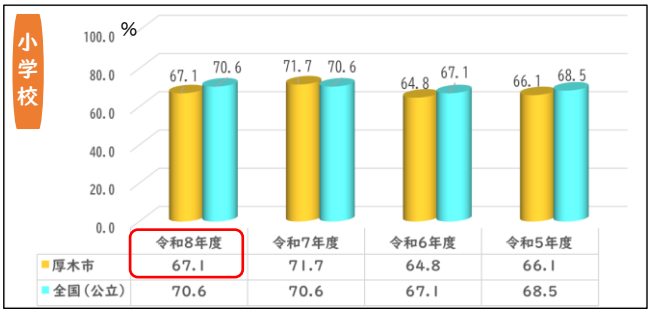



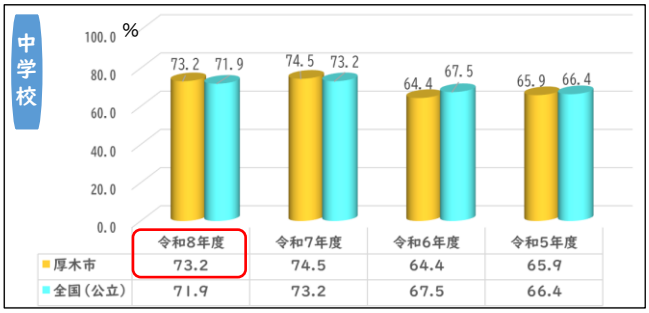

### 質問１２　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



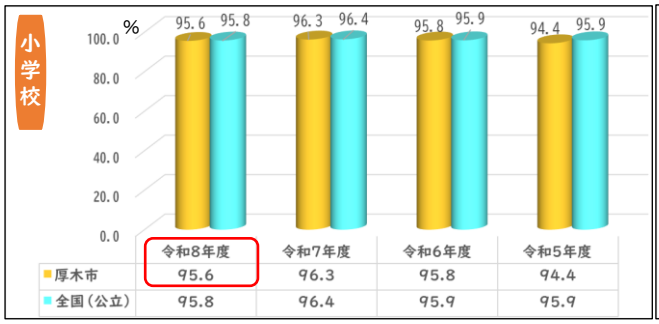



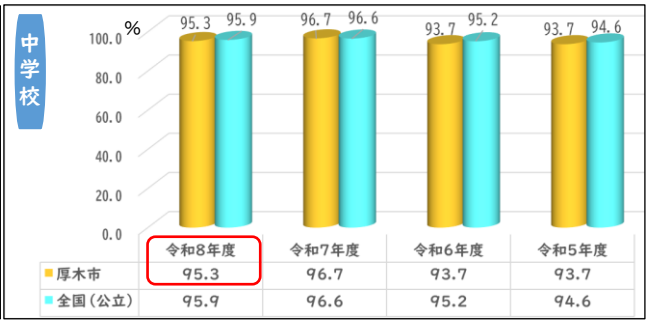
質問 13　困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



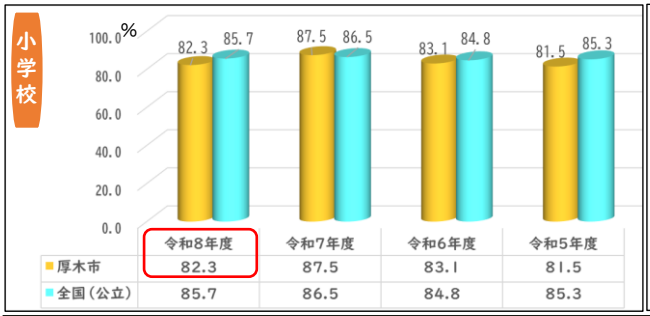



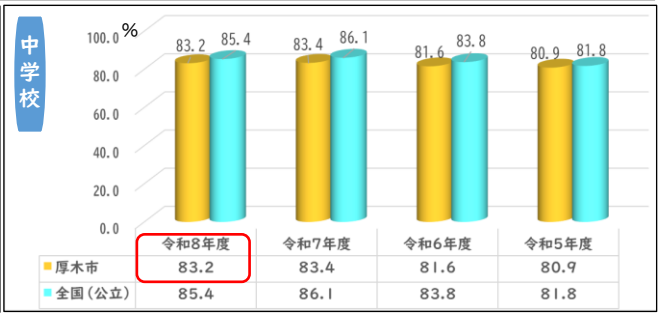

質問 14　人の役に立つ人間になりたいと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



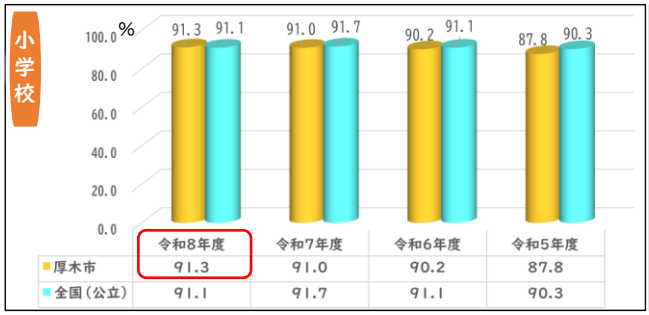



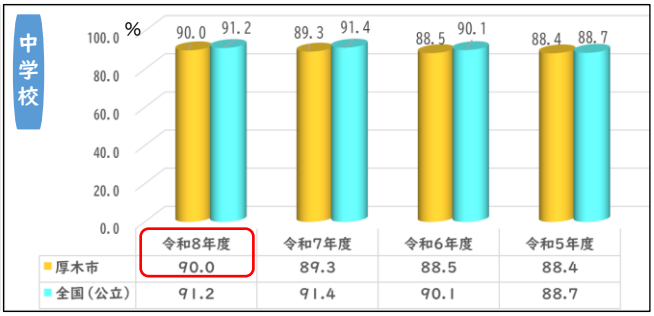

質問 15　学校に行くのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



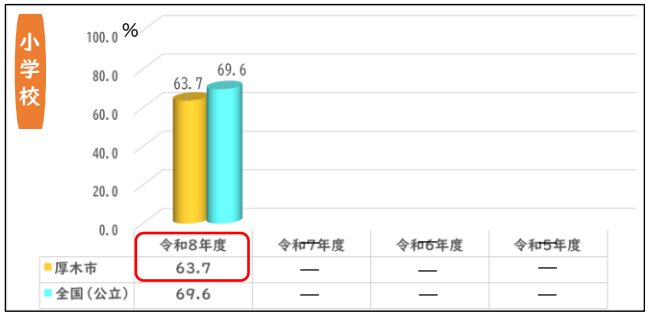



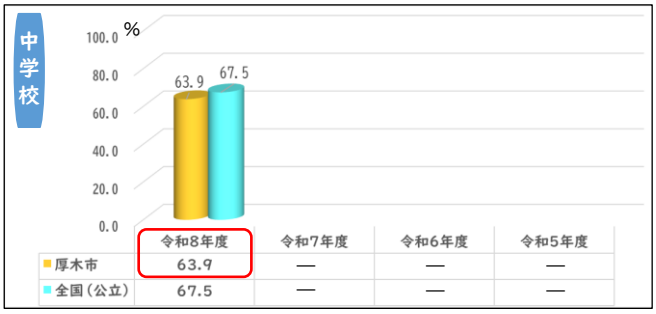

質問 17　友だち関係に満足している（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



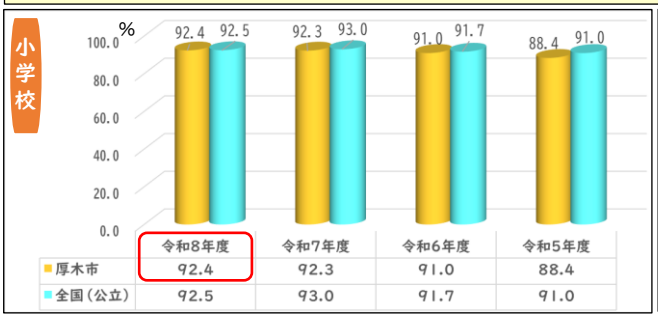



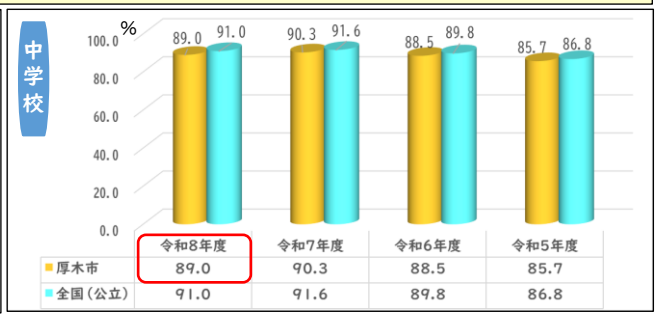

質問 20　あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか
（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



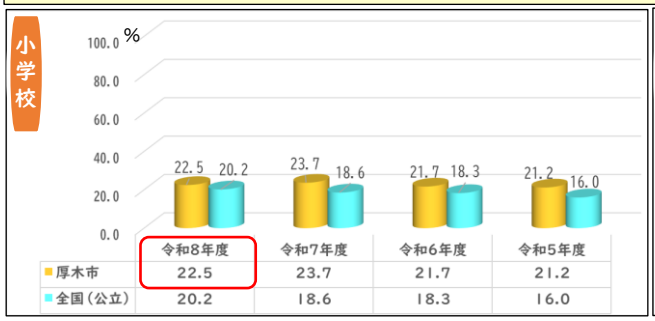
質問 21　普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
（よくある・ときどきある）

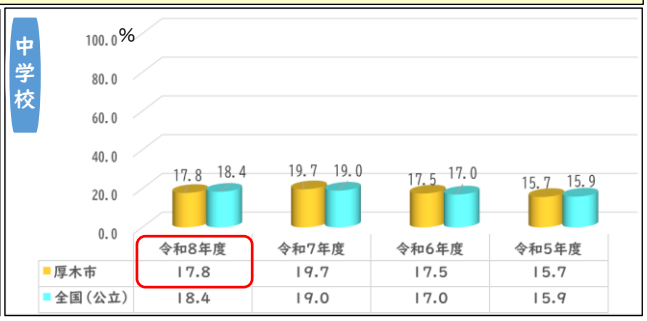


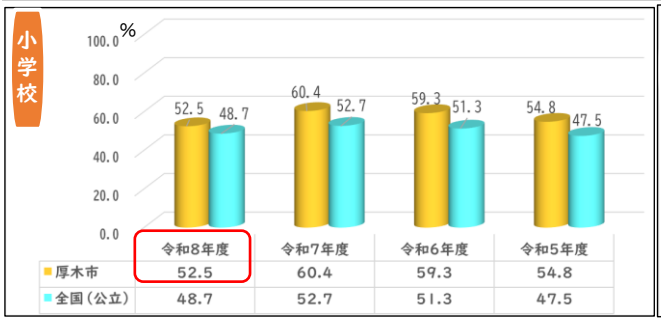

## ウ　学習習慣、学習環境等

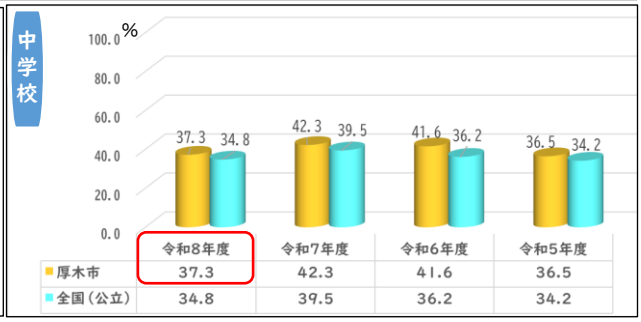
質問 23　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（30 分より少ない・全くしない）



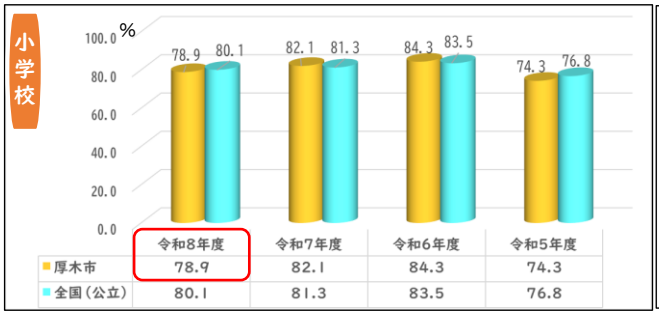

質問 25　土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（１時間より少ない・全くしない）

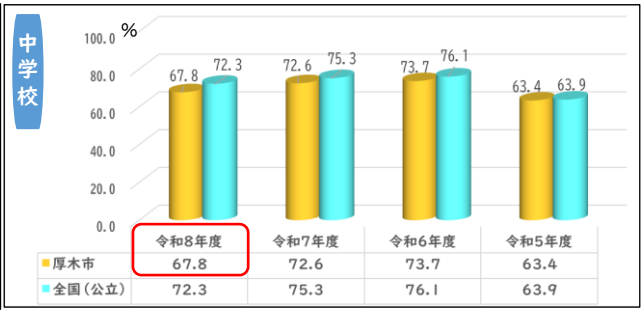



## エ　地域や社会に関わる活動の状況等

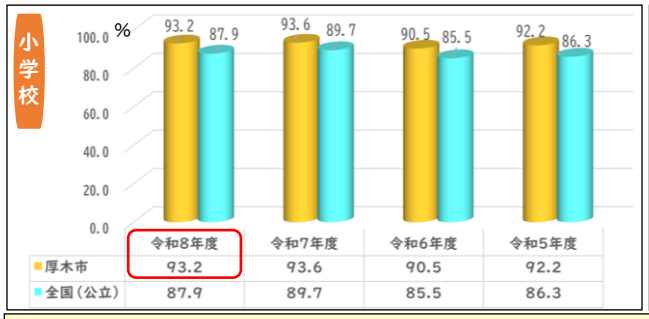
質問 33　地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

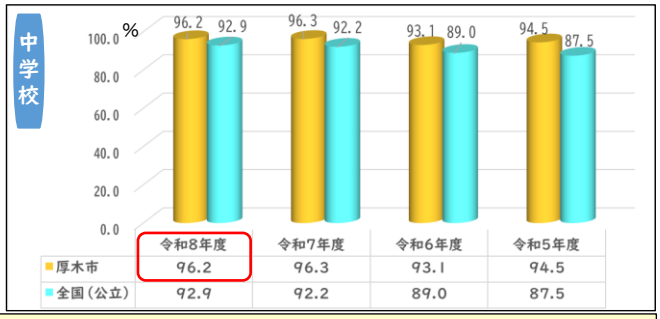


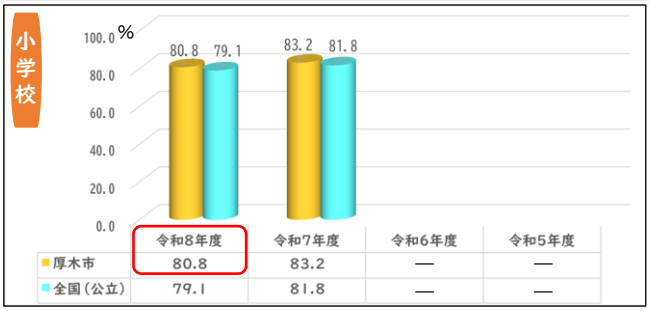
## オ　ICT を活用した学習状況

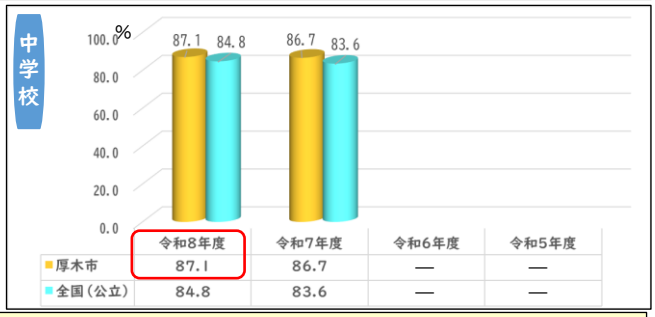
質問 35　５年生（中学校２年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。（週１回以上）



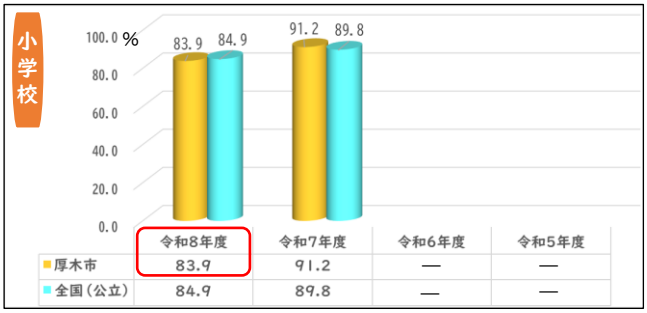



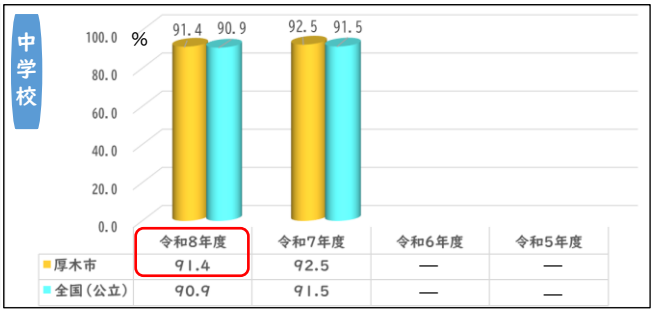

質問 36-1　あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。（そう思う・どちらかといえば、そう思う）



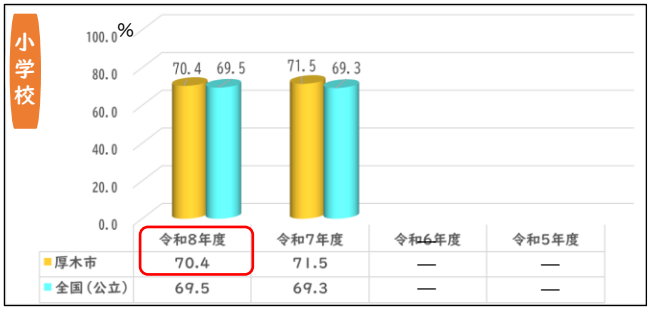



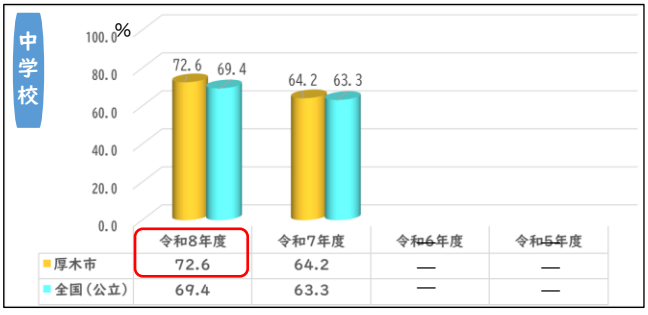

質問 36-2　あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか（そう思う・どちらかといえば、そう思う）



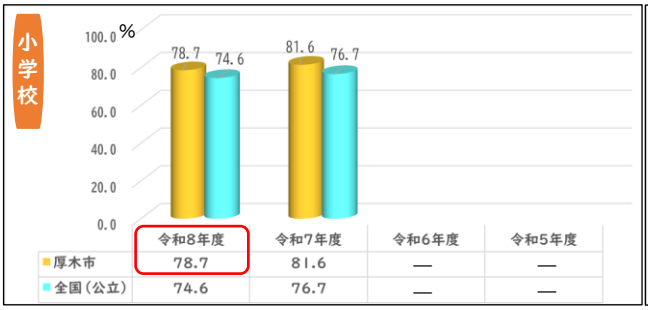



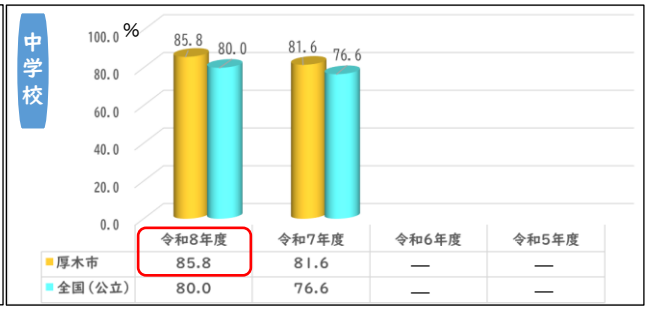

質問 36-3　あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。
（そう思う・どちらかといえば、そう思う）



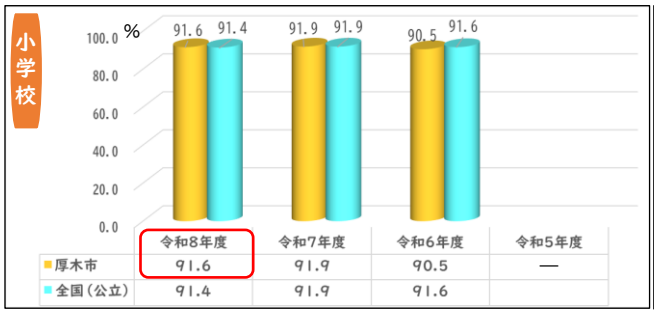
質問 36-4　あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。
（そう思う・どちらかといえば、そう思う）

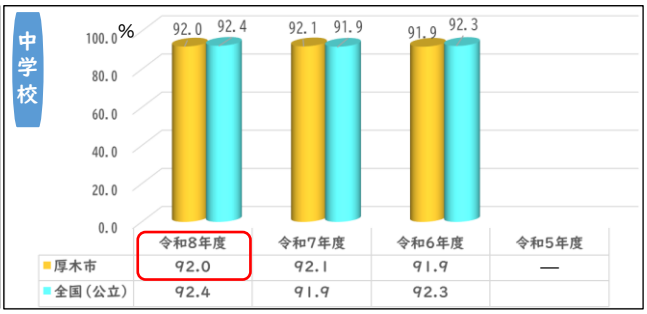



## カ　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

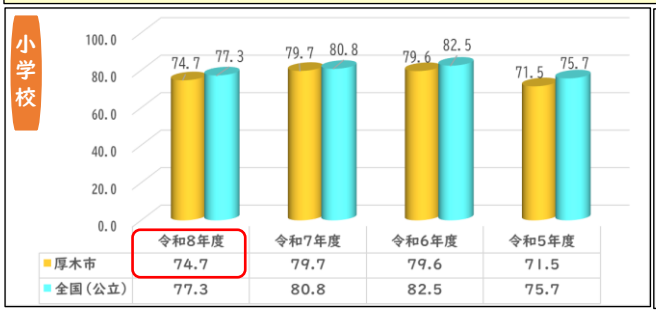
質問 46　授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

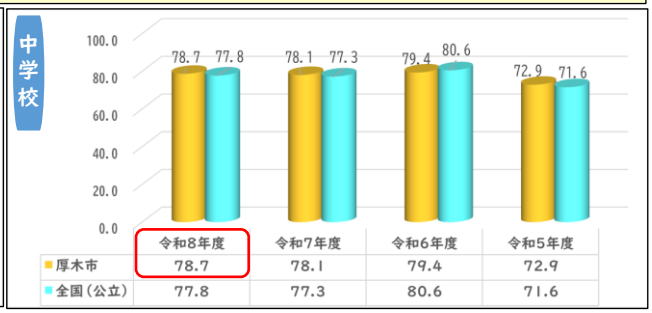



## キ　学級活動

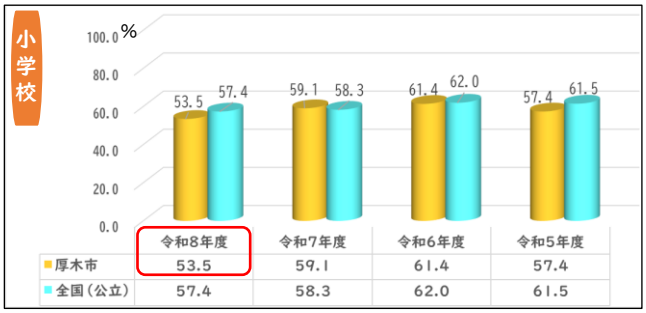
質問 50　学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

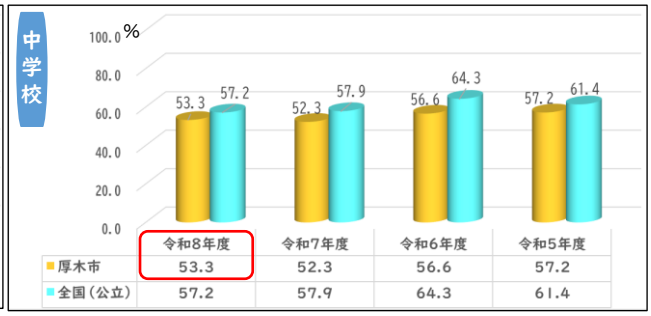



## ク　学習に対する興味・関心や授業の理解度等について

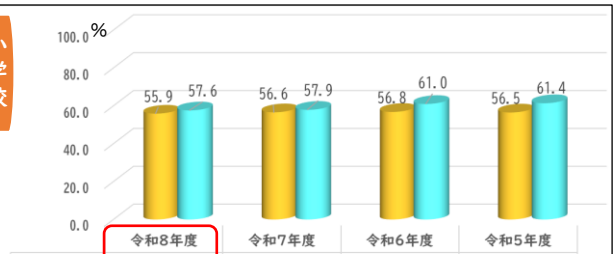
質問 53　国語の勉強は好きですか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



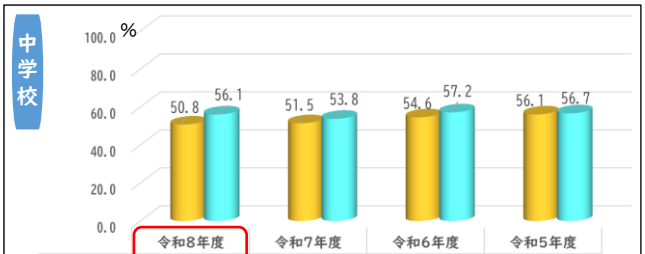
## 質問 61　算数・数学の勉強は好きですか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

小学校




| | 令和8年度 | 令和7年度 | 令和6年度 | 令和5年度 |
|---|---|---|---|---|
| 厚木市 | 55.9 | 56.6 | 56.8 | 56.5 |
| 全国（公立） | 57.6 | 57.9 | 61.0 | 61.4 |

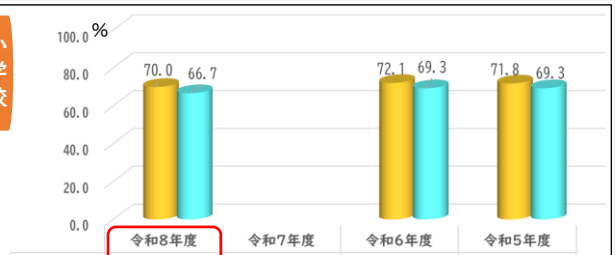
中学校




| | 令和8年度 | 令和7年度 | 令和6年度 | 令和5年度 |
|---|---|---|---|---|
| 厚木市 | 50.8 | 51.5 | 54.6 | 56.1 |
| 全国（公立） | 56.1 | 53.8 | 57.2 | 56.7 |

## 質問 70　英語の勉強は好きですか（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

小学校




| | 令和8年度 | 令和7年度 | 令和6年度 | 令和5年度 |
|---|---|---|---|---|
| 厚木市 | 70.0 | — | 72.1 | 71.8 |
| 全国（公立） | 66.7 | — | 69.3 | 69.3 |

中学校




| | 令和8年度 | 令和7年度 | 令和6年度 | 令和5年度 |
|---|---|---|---|---|
| 厚木市 | 52.9 | — | — | 55.5 |
| 全国（公立） | 51.2 | — | | 51.9 |

## 5　あつぎの学びの充実に向けて

### （１）教科（国語、算数・数学、英語）に関する調査結果について

本市の市立小・中学校の平均正答率、平均 IRT スコア（中学校 英語のみ）等を見ると、全ての教科において、全国公立学校の平均値と大きな差は見られませんでした。

なお、中学校英語は、全国（国公私立）を上回りました。

しかし、問題形式別で見ると、小・中学校共に全国（公立）及び神奈川県（公立）と同様に、国語及び算数・数学の記述式の平均正答率が昨年度に引き続き最も低くなりました。

**○…比較的できている点　●…課題のある点　□…改善のヒント**

**小学校　国語**

| | 成果と課題 | 改善のヒント |
|---|---|---|
| 知識及び技能 | ○〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕<br>話や文章の種類とその特徴について概ね理解できていると言えます。<br>●〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕<br>学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があるようです。 | □〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕<br>語彙や表現を豊かにするために今後一層必要性を増す同音異義語の理解について、語句や漢字を調べ、その意味を比べる活動や漢字の形から意味を想像する活動、着目する語句と同じ構成になっている語句を集めて語句の構成を理解する活動などが考えられます。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ●〔書くこと〕<br>引用して、自分の考えが伝わるように書いて表現することに課題があるようです。<br>●〔読むこと〕<br>文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに引き続き課題があるようです。 | □〔書くこと〕<br>引用する目的を児童が自覚できるようにするために、引用して書いている文章と引用していない文章を読み比べ、説得力の違いなどについて、理由を含めて話し合う活動や自分の考えと他者の考えを区別して書く活動などが考えられます。<br>□〔読むこと〕<br>読む目的について見通しをもち、既有の知識や経験と結び付くことが文章中にないかを意識しながら読む活動を通して、分かったことや気付いたことなどをメモし、それを交流することにより自分の考えをまとめられるようにする指導が考えられます。 |

# 小学校　算数

○…比較的できている点　●…課題のある点　□…改善のヒント

## 知識及び技能

| 成果と課題 | 改善のヒント |
| --- | --- |
| ○〔数と計算〕<br>小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解していると言えます。<br>●〔データの活用〕<br>二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに引き続き課題があるようです。<br>●〔図形〕<br>立方体の特徴や、体積の計算による求め方についての理解に課題があるようです。<br>●〔変化と関係〕<br>百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることに引き続き課題があるようです。 | □〔データの活用〕<br>「二次元の表」※から項目を読み取る活動を行う際には、二つの項目を順序よく追ったり、読み取った数値がどのような場合なのかを捉えたり、合計はその行や列の数値を合わせた数であることを理解できるようにしたりすることが大切であると考えられます。<br>さらに、他教科等においても二次元の表を作成する活動を通して、データを二つの観点から分類整理する方法について理解できるようにする指導が考えられます。例えば、体育科において対戦相手の分析や作戦を立てたりする場面や、理科において縦横２つの観点から観察や実験のデータを整理・比較し、共通点や相違点を見いだす場面などが考えられます。<br>（※　二次元の表とは、縦軸と横軸が交差する位置に情報を配置した表のことを指します。）<br>□〔図形〕<br>長方形や正方形の面積の求め方を基にして、直方体や立方体の体積の求め方を類推的に考え、体積の計算による求め方を考察する活動が考えられます。<br>□〔変化と関係〕<br>（基準量）×（割合）＝（比較量）などの言葉の式だけでなく、数直線などの図を用いて、児童自ら基準量、比較量、割合を書き込み、それらの数量の関係を捉える活動が考えられます。 |

○…比較的できている点　●…課題のある点　□…改善のヒント

# 中学校　国語

| | 成果と課題 | 改善のヒント |
|---|---|---|
| 知識及び技能 | ●〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕<br>語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題があるようです。 | □〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕<br>文章の構造と内容を把握したり、語句についての解釈を深めたりする力を伸ばすために、辞書を活用して語句の意味の使い方に対する認識を深めた上で、文章中の語句と語句との関係を考えさせる活動が考えられます。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ○〔書くこと〕<br>表現の効果を考えて描写することができている言えます。<br>●〔書くこと〕<br>表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことに課題があるようです。<br>●〔読むこと〕<br>文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題があるようです。 | □〔書くこと〕<br>書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それはどのような効果があったのかなどについて検討する活動が考えられます。例えば、書き手が工夫した表現について、読み手に意図が伝わったかを確かめたり、読み手が効果的だと感じた表現について伝え合ったりして、次の書く活動へ生かす具体的な視点を得る取組が考えられます。<br>□〔読むこと〕<br>具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返る活動などが考えられます。 |

○…比較的できている点　●…課題のある点　□…改善のヒント

# 中学校　数学

| | 成果と課題 | 改善のヒント |
|---|---|---|
| 知識及び技能 | ○〔数と式〕<br>具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができていると言えます。<br>●〔関数〕<br>反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、ｘの値に対応するｙの値を求めることに引き続き課題があるようです。 | □〔関数〕<br>反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基にｘの値に対応するｙの値を求めたりする活動が考えられます。その際には、数を求めるだけでなく、その数の理由を反比例の性質などを基に説明することを促すことが大切であると考えられます。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ●〔データの活用〕<br>データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに引き続き課題があるようです。<br>●〔図形〕<br>作図によってできた図形と作図の操作を関連付けて、証明すべき事柄の仮定となる辺や角の関係を見いだすことに課題があるようです。<br>●〔関数〕<br>数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題があるようです。 | □〔データの活用〕<br>二つの集団のデータの分布の傾向を比較し、それぞれの特徴を捉えた上で、数学的な表現を用いて説明する活動が考えられます。また、活動の中で度数分布多角形やヒストグラムなどの資料について、形や位置関係に着目し、それらの分布の特徴について話し合う場面を設定するなどの工夫も考えられます。<br>□〔図形〕<br>図形の性質を証明する場面において、与えられた条件や示された図から証明する事柄の仮定と結論を明らかにし、数学的に表現することを促すことが大切であると考えられます。<br>□〔関数〕<br>二つの数量の関係から関数関係を見いだすことができるようにするために、具体的な事象における二つの数量の変化や対応の特徴を、表・式・グラフを用いて捉え、それらを相互に関連付けて考察することを通して、どのような関数になりそうかを検討し、関数関係を判断する活動が大切であると考えられます。 |

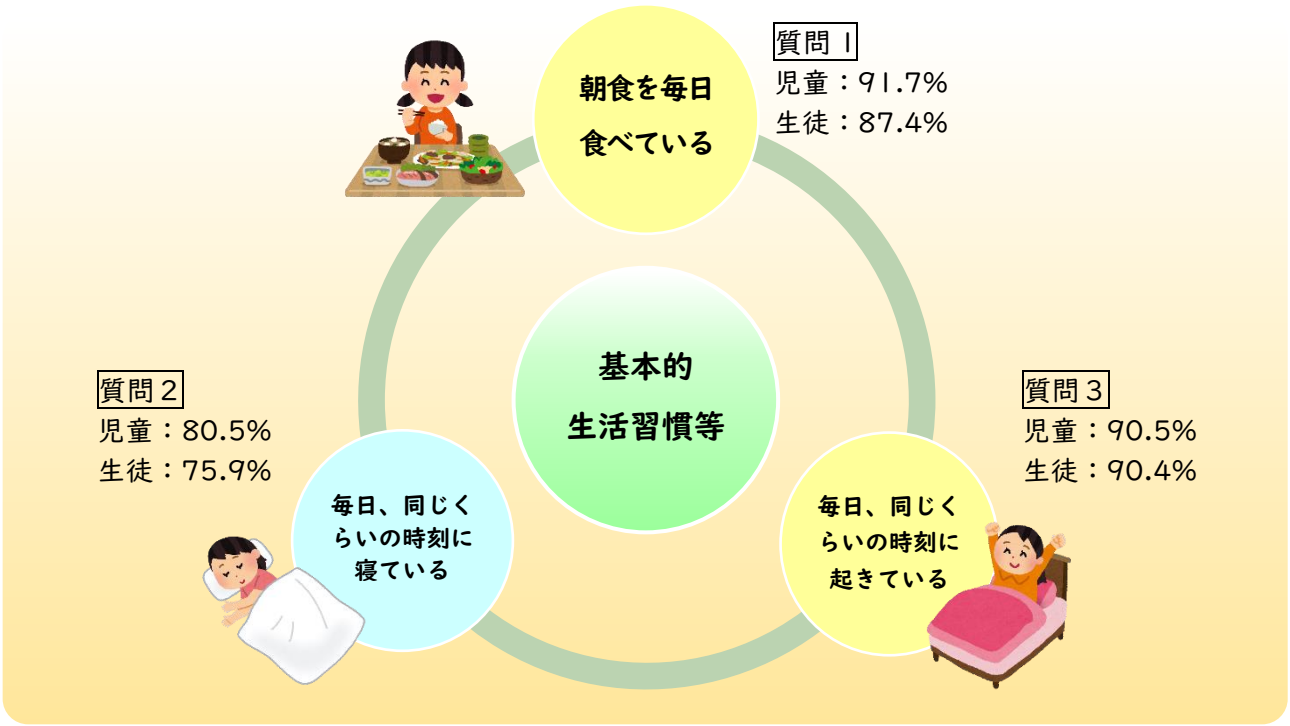
# 中学校　英語

○…比較的できている点　●…課題のある点　□…改善のヒント

| | 成果と課題 | 改善のヒント |
|---|---|---|
| 思考力、判断力、表現力等 | ○〔聞くこと〕<br>日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができていると考えられます。<br>●〔話すこと［発表］〕<br>社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに引き続き課題があると考えられます。<br>●〔書くこと〕<br>日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに引き続き課題があると考えられます | □〔話すこと［発表］〕<br>学校生活や地域の魅力等の身近な話題や、環境問題や地域社会のこと等の社会的な話題について、自分の考えとその理由となる自分の経験や事実等を整理し、相手に伝わりやすい表現を用いて英語で伝える活動が考えられます。<br>また、グループでの練習や教師や ALT からのアドバイス、ICT 機器の活用などを通して、話し方や言語材料について修正を行い、発表に向けて練習する活動が考えられます。<br>□〔書くこと〕<br>短い文章を読む活動を充実させ、読んだ文章から参考になりそうな内容や表現を選んで書かせたり、書く前にテーマについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理させたりする活動が考えられます。また。文と文とのつながりなどに注意し、代名詞や接続詞を正しく用いて、読み手に伝わる表現で感想を書かせる取組が考えられます。 |

（２）児童・生徒質問調査の結果について

**ア　基本的生活習慣等について**




児童・生徒質問調査　質問３（起床の習慣）について、９割以上の児童・生徒が肯定的な回答をしています。このことから、本市では、多くの児童・生徒が、毎日、同じくらいの時刻に起きる習慣を身に付けることができていると考えられます。

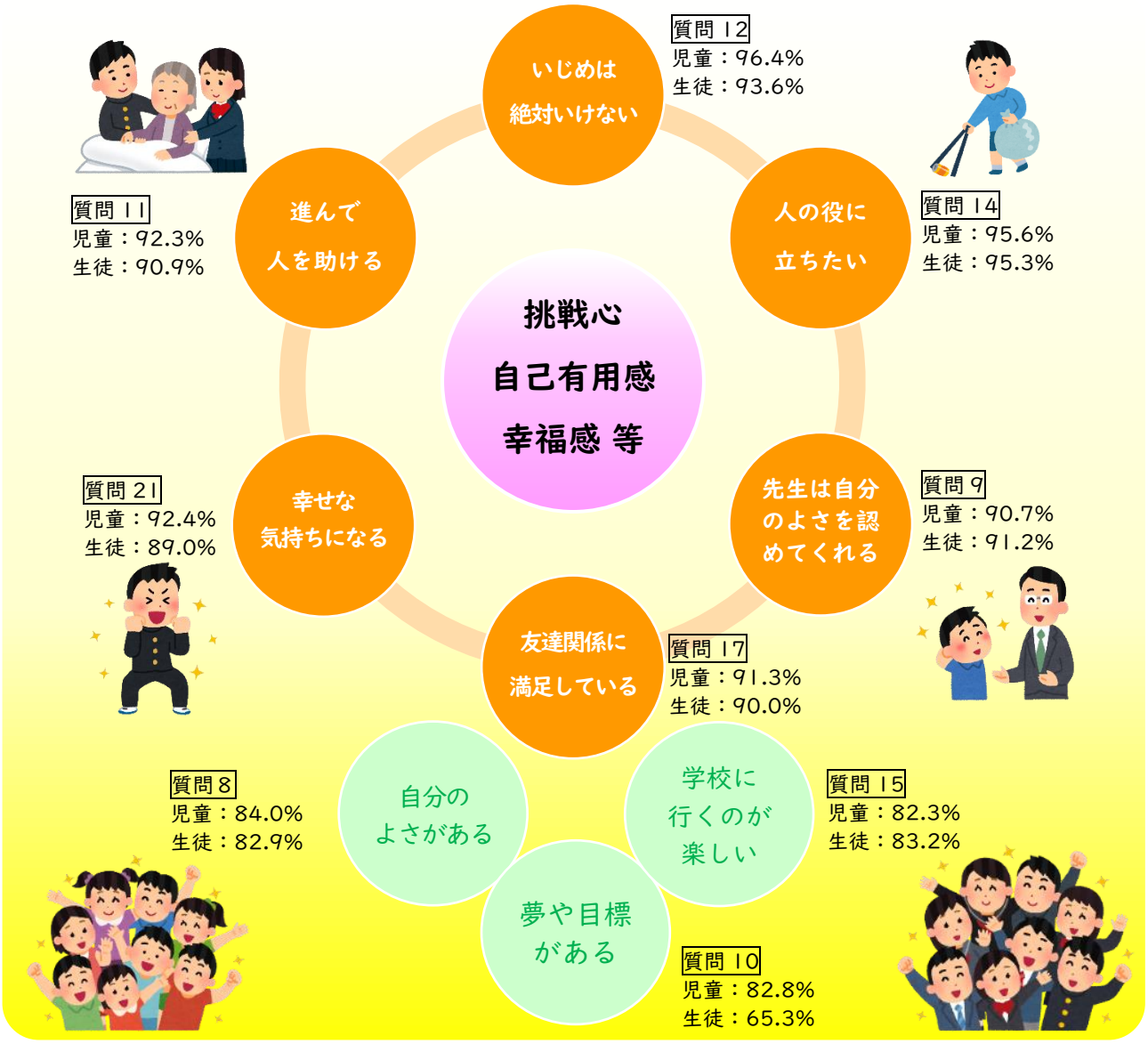
また、質問3について肯定的な回答をしている児童・生徒ほど、毎日、同じくらいの時刻に寝る習慣を身に付けることができている傾向が強いことや、朝食を毎日食べている傾向があることが、質問２（就寝の習慣）及び質問１（朝食の習慣）とのクロス集計（※5）からわかりました。

これらのことから、児童・生徒が生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができる力を身に付けるためには、健康づくりの三要素「運動＋食事＋休養・睡眠」を意識しながら基本的な生活習慣を定着させることが大切であると考えられます。そして、この実現には、家庭の支えが重要になると考えられます。

※5　クロス集計とは、相関関係（※6）がみられるかを分析したものです。

※6　相関関係とは、2つの項目の間の何らかの関係性のことを言います。これは、因果関係を示したものではないことに留意する必要があります。

## イ　挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について




児童・生徒質問調査　質問17（友達関係の満足感）について肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、令和5年度調査から3年連続で小・中学校共に増加しています。このことから、良好な人間関係を築くことができている児童・生徒の割合が増えていると考えられます。

また、市立小学校においては、児童質問調査　質問21（幸福感）について肯定的な回答をした児童の割合が、令和5年度調査から3年連続で増加しています。このことから、自分の存在やよさを友達や先生に認められ、安心して協力し合える環境が学校の中に充実しているものと考えられます。

市立中学校においては、生徒質問調査　質問9（先生からの承認）について、肯定的な回答をした生徒の割合が、令和4年度調査から4年連続で増加しています。このことから、先生方の日々の生徒一人一人への丁寧な見取りや指導・助言、コミュニケーションが、生徒の自己有用感を高めたり、安心して幸せに学校生活を過ごしたりすることができることに寄与しているものと考えられます。

今後も、人間尊重の精神を基盤として、全ての教育活動を通して、発達段階に応じた人権教育の充実を図り、多様性を認め合える児童・生徒の育成が求められると言えます。

### ウ　学習習慣、学習環境等について

児童・生徒質問調査　質問 23（平日の勉強時間）について「30 分未満」と回答をした児童・生徒の割合が、過去3年間増加していましたが今年度は減少しました。また、質問 25（休日の勉強時間）について「1時間未満」と回答した児童・生徒の割合も同様に減少しました。しかし、小学校においては、5割を超えており、これは全国（公立）よりも高い結果となりました。

本学力調査結果とのクロス分析からは、平日及び休日の学習時間を確保している児童・生徒ほど、本学力調査の正答数が多い傾向があることがわかります。特に、中学校の方が小学校に比べて相関関係が強いことが分かります。

引き続き、学校においては、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたり、「取り組みたい」、「やってみたい」と思えるような課題を工夫したりすることが求められると考えられます。また、家庭での心温かい励ましや労いなどの声掛けもこどもの学ぶ意欲につながるものと言えます。

### エ　地域や社会に関わる活動の状況等について

児童・生徒質問調査　質問 33（地域や社会をよくするために何かしてみたい）について、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校では約 8 割、中学校では約 7 割となり、昨年度に引き続き減少しました。

児童・生徒質問調査　質問50（学級活動における自分自身の取組）とのクロス分析から、学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組んでいると自覚している児童・生徒ほど、質問33（地域や社会をよくするために何かしてみたい）について肯定的な回答をする傾向があることが分かりました。

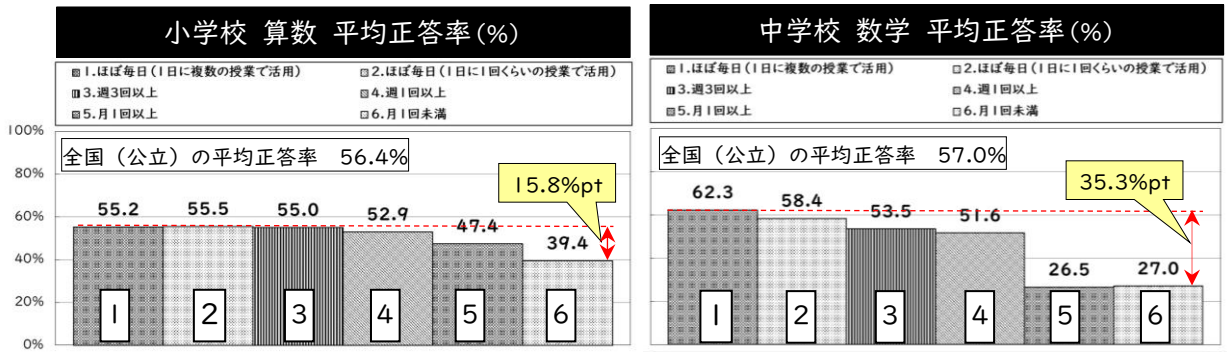
このことから、学級という身近な集団での話合いと自己の意思決定・実践の経験が、将来的な社会参画の意識の基盤になるのではないかと考えられます。

### オ　ＩＣＴを活用した学習状況について

児童・生徒質問調査　質問35（授業における ICT 機器の活用頻度）について、「週1回以上」と回答した児童・生徒の割合は、4年連続で全国（公立）を上回り、9割を超えています。特に、小学校よりも中学校において頻繁に使用されています。

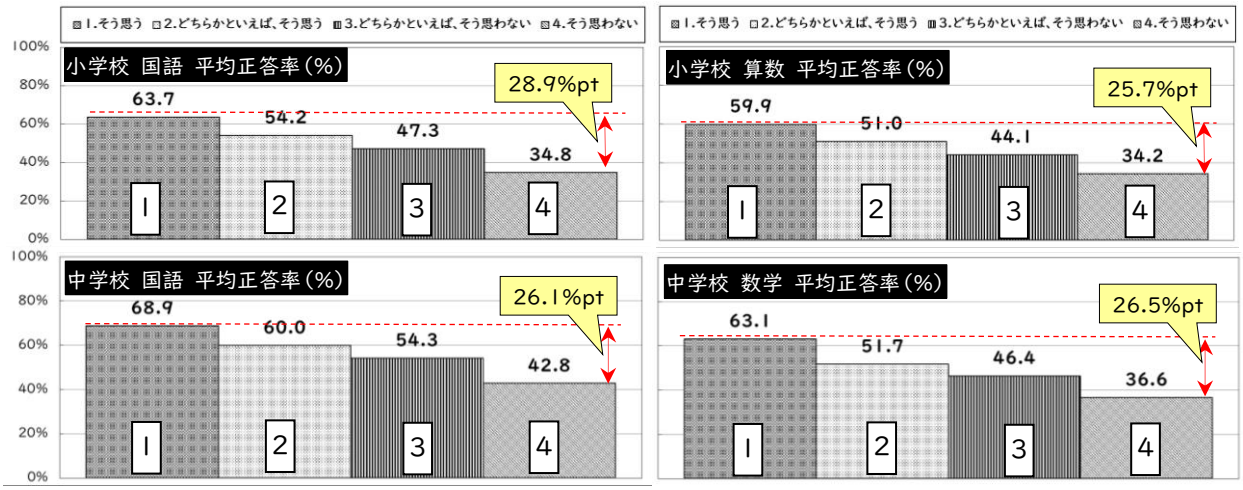
下のグラフは、質問35（授業における ICT 機器の活用頻度）と算数・数学の学力調査結果とのクロス集計の結果を表したものです。

小学校よりも中学校の方が、ICT 機器の活用頻度との相関関係が強い傾向があることが分かります。特に、「1．ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」の平均正答率と「6.月1回未満」のそれとの差は、小学校では 15.8%pt、中学校では 35.3%pt となっており、中学校の方が差が大きいことが分かります。なお、国語についても同様のことが言えます。



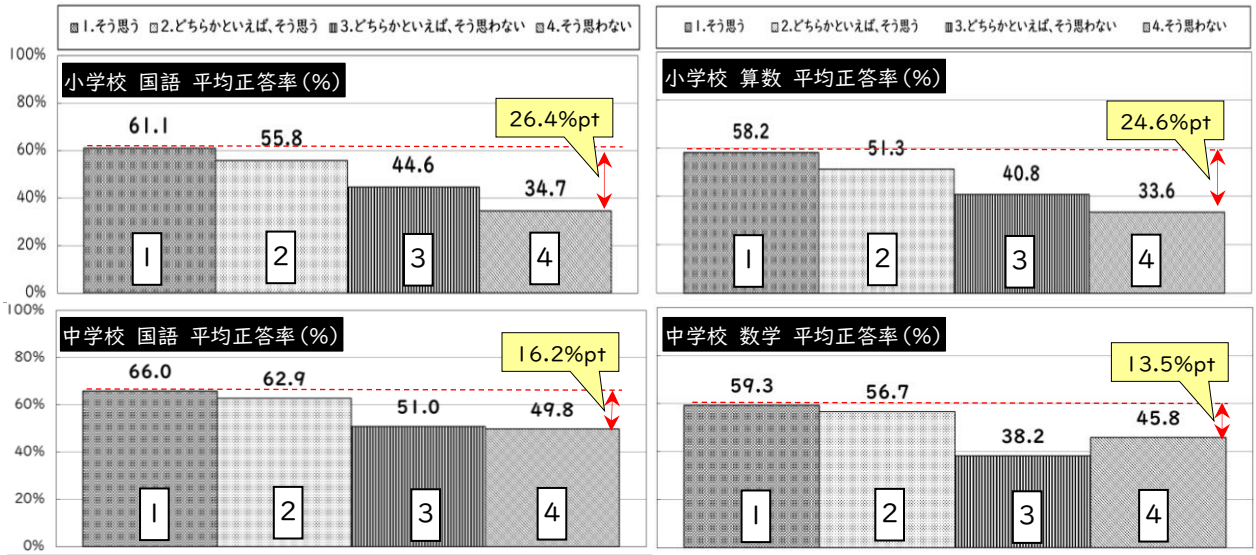
次の各グラフは、質問36-1 から質問 36-4 と国語及び算数・数学の学力調査結果とのクロス集計の結果を表わしたものです。

質問 36-1　あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。（そう思う・どちらかといえば、そう思う）



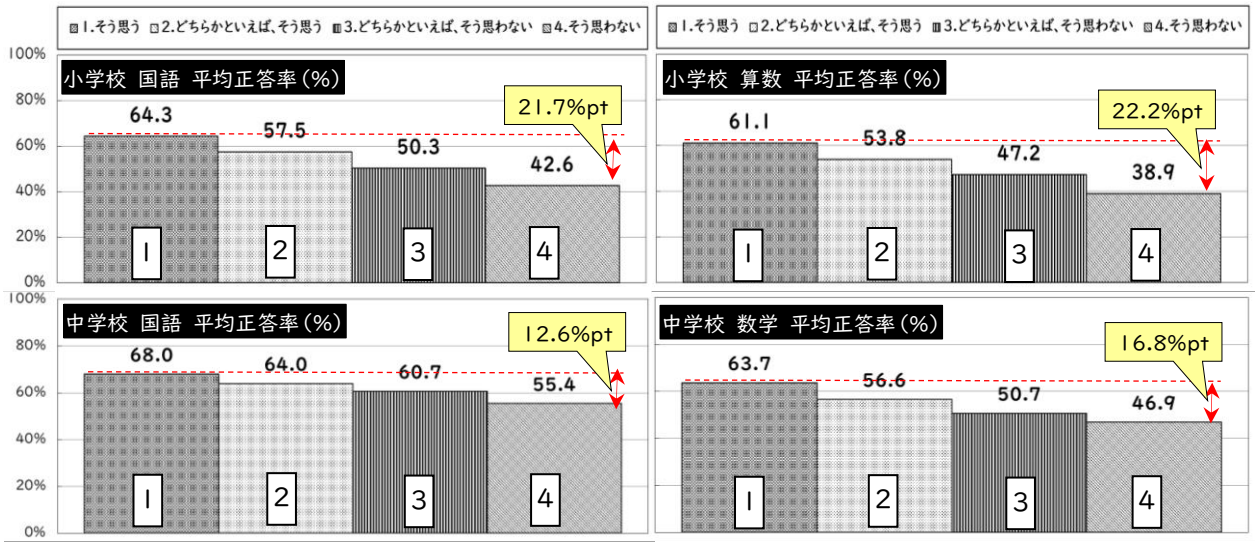

小・中学校共に、ICT 機器で文章を作成する自信がある児童・生徒ほど、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向があることが分かります。

質問 36-2　あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか（そう思う・どちらかといえば、そう思う）



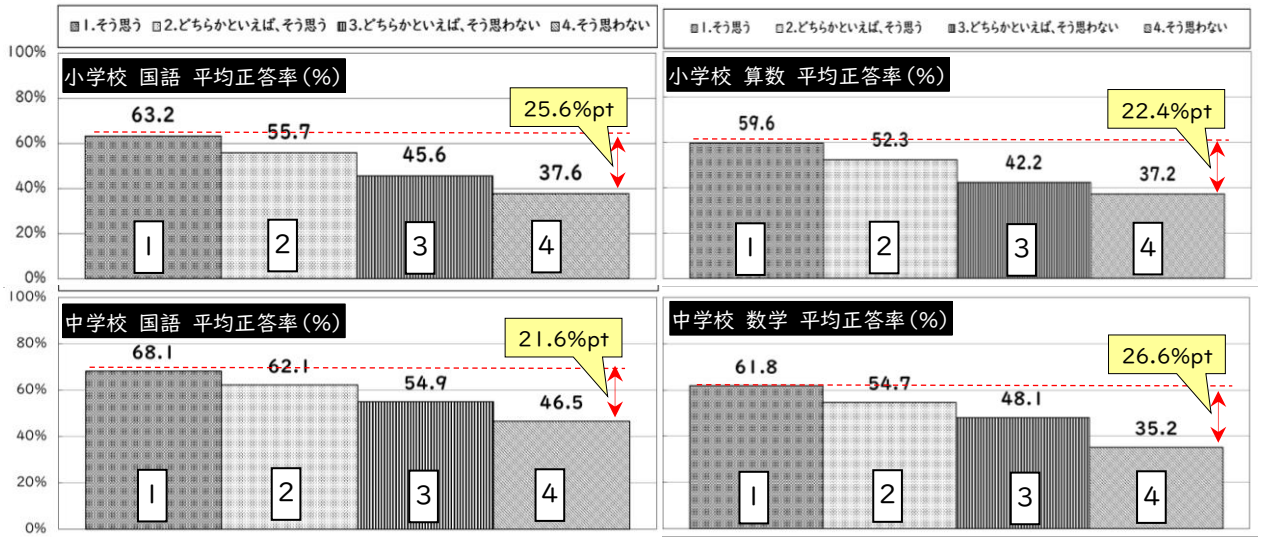

小学校の方が中学校に比べて、インターネットを使った情報収集（検索、調べるなど）への自信と学力調査結果との相関が強い傾向があることが分かります。

質問 36-3　あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。（そう思う・どちらかといえば、そう思う）




小学校の方が中学校に比べて、ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）自信と学力調査結果との相関が強い傾向があることが分かります。

質問 36-4　あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。（そう思う・どちらかといえば、そう思う）




小・中学校共に、ICT 機器でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する自信がある児童・生徒ほど、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向があることが分かります。

以上のことから、ICT 機器の活用に当たっては、授業の中で、児童・生徒が思考を整理したり、表現したり、発信したりするための身近な道具として、必要性のある時に能動的に使いこなすことができる力を身に付けることが引き続き大切になると考えられます。

### カ　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

児童・生徒質問調査 質問 46（授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる）について、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、3年連続で9割を上回っています。

このことから、市立小・中学校共に、授業や学校生活の中で、人の考えを大切にし、協力しながら課題の解決に取り組むことができていると実感している児童・生徒が多いことが分かります。

また、本質問 46（授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる）について肯定的に回答した児童・生徒ほど、次の質問に対しても肯定的な回答をしている傾向があることがクロス分析から分かりました。

| |
|---|
| 質問８　自分には、よいところがある（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる） |
| 質問 11　人が困っているときは、進んで助けている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる） |
| 質問 13　困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる<br>（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる） |
| 質問 15　学校に行くのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる） |
| 質問 20　あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか<br>（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる） |

このことから、児童・生徒は、学校での日々の協働的な学びの体験を通して、自己有用感を高めたり、他者を思いやったり、困りごとや不安があったときに先生などに相談したりする中で、学級で過ごす安心感や学校生活の楽しさを見いだしているのではないかと考えられます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、デジタル学習基盤等を活用しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが求められています。今後、これらの学びをより一層充実させるために、単元全体の中で「児童・生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする場面」や「グループ等で対話する場面」、「児童・生徒が自ら考える場面と教員が教える場面」などを計画的に組み立て、配置するなど、単元や題材など内容や時間のまとまりでの授業デザインが求められると考えられます。また、その際には、例えば、単に話し合いの形態を取り入れるといった、授業の方法や技術の改善を目的化させるのではなく、各教科等の目指す資質・能力を育むことが目的であることを忘れてはならないと言えます。

# 令和8年度全国学力・学習状況調査に係る
# 厚木市立小・中学校の調査結果について




厚木市教育委員会